

韓国人の血・地・知、そして日本

——韓国人のアイデンティティ・独島意識・日本イメージに関する実証分析——

玄 大 松

はじめに

「独島の岩を砕くと韓国人の血が流れる」。

たった一行の詩である。これは二〇〇五年四月、韓国詩人協会が主催した「独島愛詩朗唱芸術祭」を代表する詩であるが、韓国人の独島（日本名、竹島）に寄せる思いをみごとに表している。

韓国人の領土意識に、韓国の文化が根強く反映されていることは論を待たない。文化は人の行動様式を意識的・無意識的に制御するからである。また、その地特有の文化のなかで育った市民は、他国の市民と区別される国民的アイデンティティを有する⁽¹⁾。それは、アイデンティティが、社会化過程を通じて形成された、自己と他者をどう見るか、という世界観と価値観⁽²⁾に関わるものであるからだ。

コンストラクティヴィズムは、現実の社会関係を、「人間と人間の相互主観的な相互行為のもとに徐々に形成され

韓国人の血・地・知、そして日本

るものであり、相互作用する個々人のアイデンティティや国家のアイデンティティも、社会的相互作用のなかで形成されるとともに、そこで形成された地域や国家のアイデンティティが国際関係にも反映するというシンボリックな相互作用論を基礎とする⁽³⁾とみる。すなわち、アイデンティティ問題の根底には、対外イメージ、国民としての誇り、愛国心、イデオロギー、国際政治観などの抽象的問題が絡み合っており、それらが人々の対外認識と対外態度とに反映されるとみるのである。では、果たして、韓国人のアイデンティティとは如何なるものであり、それは日韓関係にどのように影響しているのだろうか。

ところで、韓国人にとって「独島／竹島問題」は、日本植民地統治の屈辱の記憶と直結し、反日感情の深淵を刺激している問題である。韓国人にとって「独島」は「日本に対する韓国主権のシンボル」であり、「聖なる地」として扱われている、と言われている。しかし、韓国人は何歳くらいになると独島を韓国の領土と認識するようになるのか、独島をどのくらい重要だと思うのか、「独島／竹島問題」にどのくらい関心があり、どれくらい知識を持っているのか、その知識をどこから得るのか、「独島／竹島問題」に関してどのような意見を持っているのか、などについての実証研究はこれまでない。

周知のように、公職に就いている日本人が「竹島は日本の領土である」と主張すると、韓国のマス・メディアは忽ち、対日非難の集中砲撃を浴びせ、韓国社会は一瞬にして「反日」ムードに包まれる。このような韓国社会における対日言説空間は、韓国人の日本イメージにどのように影響するのだろうか。

本稿は、以上のような問題関心から、韓国の若者たちのアイデンティティ、独島意識、日本イメージが、どのように形成されたのか。その認識構造は如何なるものであるか。それらは互いにどのように関連し、日韓関係に対する態

度にどのような影響を与えているか、などをアンケート調査の分析を通して明らかにしてゆきたい。

第一章 サンプルの探索

第一節 サンプルのデモグラフィ

本稿においてはアンケート調査の対象者を、一一八三人の韓国の大学生とする。筆者は、二〇〇一年五月二二日から六月一〇日までの間にソウル市内の中・高・大学生二一二二人を対象に、「韓日関係および独島問題に対する意識調査」を実施した。本稿では、このなかから判断標集した大学生だけを取り上げ分析した。彼らは、ソウル地域の主要大学九校の法学専攻学生であり、したがって韓国の次世代を担っていくエリート・グループであるという点で、今後の韓国社会を展望しうる興味深い対象でもある。なお、すべての分析はSPSS 10.0 for Windowsを利用した⁽⁵⁾。

本研究におけるデモグラフィは、性別と学年にした。一一八三人中、女子は三四三人(二九・〇%)、男子は八四〇人(七一・〇%)である。男子の比率が高いが、これは、そもそも韓国の法学科在学生の男子比率が高いためである⁽⁶⁾。三年生と四年生の女子の分布が多少低い⁽⁶⁾が、全体的な母集団の分布とそれほど変わらない。ただ、学年の分布は母集団にくらべ二年生がやや多い。

韓国人の血・地・知、そして日本

表1 サンプルの性別・学年分布

| 性別 | 全体 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | $\chi^2(P)$ 13.564** (.004) |
|----|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------------------------|
| 女子 | 343 (29.0%) | 57 (16.6%) | 157 (45.8%) | 98 (28.6%) | 31 (9.0%) | |
| 男子 | 840 (71.0%) | 148 (17.6%) | 379 (45.1%) | 180 (21.4%) | 133 (15.8%) | |
| 全体 | 1,183 (100.0%) | 205 (17.3%) | 536 (45.3%) | 278 (23.5%) | 164 (13.9%) | |

第二節 日本接触度

第一項 日本訪問経験

民族・人種間の偏見やステレオタイプ、対外態度と接触との関係などの問題領域では社会心理学の分野から「接触仮説 (Contact Hypothesis)」が取り上げられてきた。オルポート (Gordon Willard Allport) の「接触仮説」による結論は、個人の性格構造に深く根ざす場合を除いて、偏見は、共通の目標を追求する多数者集団と少数者集団との対等の地位における接触によって減少されるであろう、というものであった。⁽⁷⁾そして、オルポート以来、個人的接触によって、人種的偏見が解消されるのか否か、ある対象に対して好意的になるのか否か、多くの実証的研究が行われてきた。現在までのところ「接触が態度変化を引き起こす」という基本命題に関しては殆どの研究で確認されてきたが、態度変化の「方向」に関しては、接触場面の諸状況因子によって規定されるというのが一般的結論である。⁽⁸⁾

最近の研究においても、石井健一、渡辺聡、梁麗娟などが、一九九八年一月に香港で行った調査によれば、「保釣運動」⁽¹⁰⁾に対する支持は、日本のマンガに「接触なし」の者が四三・五%であったが、「接触あり」の者は五三・四%であり、接触ありの方が支持率が高かった。ただし、台湾に関しては逆の結果が出ている。⁽¹¹⁾

日韓間においては、呉澤燮が一九八九年に行った調査によれば「日本または日本文化との直接接触経験は、日本に対する評価の基準を感情的なレベルから理性的なレベルへと変え、接触経験は日本に対する態度を改善することにならず寄与している」⁽¹²⁾とされる。

小針進らが二〇〇二年三月、韓国で実施した「流行、大衆文化および社会意識に関する調査」⁽¹³⁾では、日本に対する親近感を感じる比率が、日本の映画やテレビドラマの「視聴経験あり」が四七・六%、「視聴経験なし」が二一・八%で、明らかに「視聴経験あり」の方が親しみを感じる率が高かった。一方、同調査では、「かつて日本が植民地化したことについて、日本はすでに謝罪したと思いますか」という質問もしているが、この質問に関しては、日本の映画やドラマの「視聴経験あり」と「視聴経験なし」との間には、大きな差は見出せなかった、とする。⁽¹⁴⁾

韓国人は日本文化に接する機会が多く、日本人との付き合いが多い。日本文化や日本人との付き合いは、彼らにどのような影響を与えるだろうか。それを解明するために、本稿における「日本接触度」変数は日本訪問経験があるか否か、日本人友達がいるか否か、日本の映画、小説、音楽に接したことがあるか否かから構成した。

戦後日韓の経済関係は日増しに緊密になっている。一九五三年時点での日本の対韓輸出額は三八〇億円、輸入三〇億円であった。一九六五年の国交正常化の段階では輸出六五〇億円、輸入一五〇億円であったが、国交正常化以降、輸出入とも飛躍的に増大していった。二〇〇四年現在の日本の対韓輸出額は四兆円を超え、輸入も二兆円を超えている。国交正常化の時期に比べ、金額面からみても輸出は六〇倍以上、輸入は約一四〇倍になった。⁽¹⁵⁾

経済交流規模の拡大と共に民間交流も持続的に増加している。日本を訪れる韓国人海外旅行者数は一九六五年日韓国交正常化の年の一万七〇六八人から、一九九一年には一〇〇万人を越え、さらに二〇〇一年には一三四万人になった。⁽¹⁶⁾一方、韓国を訪れた日本人旅行者数は一九八〇年の四二万八〇〇八人から、一九八九年に一〇〇万人、一九九九年には二〇〇万人を越え、二〇〇一年には約二四〇万人の日本人が韓国を訪れた。韓国は、日本人がアメリカの次に、最も多く訪れる場所である。⁽¹⁷⁾韓国から日本への留学生の数も一九八〇年代以降増え続け、一九九四年から一九九八年

の間一時減少することはあったがその後また増え続けている。⁽¹⁸⁾

一方、韓国で生活する日本人の数も持続的に増えている。特に一九八六年以降の増加の傾向は著しい。一九八八年一〇四人に過ぎなかった在韓日本人は、一九八六年に二〇〇〇人台を越えてからは鰻登りに増加、一九九七年末韓国の通貨危機の際に一時減少したものの二〇〇一年には一万七六一三人に至っている。このように活発な草の根交流の状況を反映して、サンプルのなかでも日本訪問経験のある大学生は一一・八%に至る。また、女子は一一・七%、男子は一一・九%で、一年生は八・八%、二年生は一一・八%、三年生は一二・九%、四年生は一四・六%であるが、性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

第二項 日本文化の体験

韓国の青少年たちが容易く接することができる大衆文化のなかで、日本のアニメ、映画、音楽などを、それが日本のものであると自覚したうえで体験したと答えた学生は、九六・五%で、女子九五・六%、男子九六・九%が日本文化を体験している。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

表2 日本訪問経験

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|----------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 行ったことがない | 1,043 88.2% | 303 88.3% | 740 88.1% | 187 91.2% | 473 88.2% | 242 87.1% | 140 85.4% |
| 行ったことがある | 140 11.8% | 40 11.7% | 100 11.9% | 18 8.8% | 63 11.8% | 36 12.9% | 24 14.6% |

第三項 日本人友達の有無

日本人友達と交流した経験があるか、あるいは現在日本人友達がいる学生の比率は、一八・三%である。女子は二一・六%、男子は一六・九%であるが、統計的に有意な差はない。学年によっては、一年生は一五・六%、二年生は一六・八%、三年生は一八・〇%、四年生は二六・八%で、学年が高いほど日本人友達との交流経験が多い ($P < 0.05$)。

第四項 価値変数

価値変数は韓国人としての誇り、国家・民族への忠誠、イデオロギー、国際政治観、政治的疎外感、政治満足度から構成した。

韓国人の血・地・知、そして日本

表3 日本文化体験

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|----|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| ない | 41 3.5% | 15 4.4% | 26 3.1% | 7 3.4% | 18 3.4% | 10 3.6% | 6 3.7% |
| ある | 1,142 96.5% | 328 95.6% | 814 96.9% | 198 96.6% | 518 96.6% | 268 96.4% | 158 96.3% |

表4 日本人友達の有無

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| ない | 967 81.7% | 269 78.4% | 698 83.1% | 173 84.4% | 446 83.2% | 228 82.0% | 120 73.2% |
| ある | 216 18.3% | 74 21.6% | 142 16.9% | 32 15.6% | 90 16.8% | 50 18.0% | 44 26.8% |
| $\chi^2(2P)$ | | 3.558(.059) | | 9.823*(.020) | | | |

* $P < .05$ *** $P < .001$

(一) 韓国人としての誇り

韓国人であることをどのくらい誇らしく認識するか、に対して五点尺度（恥ずかしいと思う＝一点、…、誇らしいと思う＝五点）で調べたところ、全体平均三・八二で、韓国の大学生は韓国人であることをやや誇らしく思っている。女子は平均三・七〇、男子は三・八六で、男子の方が韓国人としての誇りを感じる程度が高かった（ $P < 0.05$ ）。学年間に統計的に有意な差はない。

(二) 国家・民族への忠誠

個人の良心と国家・民族への忠誠が、お互い対立・矛盾する際、どちらを優先して行動するかを尋ねたところ、「個人の良心に従って行動する」と答えた比率は六六・一％である。

「国家・民族への忠誠を優先する」と答えた比率は一七・二％である。（ $P < 0.01$ ）

表5 韓国人としての誇り

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 3.82 | 3.70 | 3.86 | 3.88 | 3.86 | 3.72 | 3.77 |
| SD | 1.03 | .95 | 1.05 | 1.06 | .98 | 1.05 | 1.08 |
| t・F(P) | | -2.447*(.015) | | 1.509(.210) | | | |

* $P < 0.05$ *** $P < 0.001$

表6 国家・民族への忠誠

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 個人の良心 | 782 66.1% | 244 71.1% | 538 64.0% | 129 62.9% | 366 68.3% | 186 66.9% | 101 61.6% |
| 国家・ 民族優先 | 204 17.2% | 38 11.1% | 166 19.8% | 37 18.0% | 82 15.3% | 51 18.3% | 34 20.7% |
| 分からない | 197 16.7% | 61 17.8% | 136 16.2% | 39 19.0% | 88 16.4% | 41 14.7% | 29 17.7% |
| $\chi^2(P)$ | | 12.872**(.002) | | 5.258(.511) | | | |

* $P < 0.01$ *** $P < 0.001$

女子一・一％、男子一九・八％で、男子の方がより国家・民族への忠誠を優先する傾向が高かった ($P<0.1$)。学年間に統計的に有意な差はない。

(三) イデオロギー

大学生たちのイデオロギー分布は、中道からややリベラルの方へ傾いている。無政府主義二・三％、共産主義〇・五％、社会民主主義一八・九％、自由主義三〇・五％、中道一八・四％、キリスト教民主主義八・三％、穏健保守主義一八・三％、強硬保守主義一・六％、全体主義一・一％である。性別では、女子は、社会民主主義二〇・一％、自由主義二九・四％、中道が二四・五％で比較的多い。男子の場合は、社会民主主義一八・五％、自由主義三一・〇％、

韓国人の血・地・知、そして日本

表7 イデオロギー分布

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 無政府主義 | 27 2.3% | 5 1.5% | 22 2.6% | 8 3.9% | 12 2.2% | 4 1.4% | 3 1.8% |
| 共産主義 | 6 .5% | 1 .3% | 5 .6% | 1 .5% | 3 .6% | 1 .4% | 1 .6% |
| 社会民主主義 | 224 18.9% | 69 20.1% | 155 18.5% | 31 15.1% | 105 19.6% | 53 19.1% | 35 21.3% |
| 自由主義 | 361 30.5% | 101 29.4% | 260 31.0% | 66 32.2% | 174 32.5% | 79 28.4% | 42 25.6% |
| 中道 | 218 18.4% | 84 24.5% | 134 16.0% | 42 20.5% | 86 16.0% | 59 21.2% | 31 18.9% |
| キリスト教 民主主義 | 98 8.3% | 37 10.8% | 61 7.3% | 12 5.9% | 51 9.5% | 21 7.6% | 14 8.5% |
| 穏健保守主義 | 217 18.3% | 42 12.2% | 175 20.8% | 39 19.0% | 97 18.1% | 52 18.7% | 29 17.7% |
| 強硬保守主義 | 19 1.6% | 3 .9% | 16 1.9% | 3 1.5% | 6 1.1% | 5 1.8% | 5 3.0% |
| 全体主義 | 13 1.1% | 1 .3% | 12 1.4% | 3 1.5% | 2 .4% | 4 1.4% | 4 2.4% |
| $\chi^2(P)$ | | 29.974***(.000) | | 23.189(.509) | | | |

*** $P<.001$

穩健保守主義が二〇・八％で比較的多い (P<0.01)。学年によるイデオロギーの差はない。

(四) 国際政治観

大学生たちに、国際社会が、「弱肉強食の競争社会で、自国の生存と利益を優先的に追求する」か、あるいは「相互依存的社会で、自国の利益を犠牲にしても国際社会全体の利益のためにお互い協力する」か、どちらであると思うかを尋ねた。

国際社会が「弱肉強食の競争社会で、自国の生存と利益を優先的に追求する」現実主義的競争社会であると答えた比率は四二・九％、「比較的競争社会」は三六・九％、「比較的相互依存的社会」は一一・四％、「相互依存的社会」は七・〇％で、国際社会は競争的な弱肉強食の社会であるという「現実主義的政治観」が七九・八％と強く現れた。性別によっては、男子の方が、女子より、国際社会が弱肉強食の競争的な社会であると認知する傾向が比較的強く (P<0.01)、学年間に統計的に有意な差はない。

表 8 国際政治観

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 競争社会 | 507 42.9% | 110 32.1% | 397 47.3% | 89 43.4% | 212 39.6% | 131 47.1% | 75 45.7% |
| 比較的競争社会 | 436 36.9% | 155 45.2% | 281 33.5% | 70 34.1% | 223 41.6% | 94 33.8% | 49 29.9% |
| 分らない | 22 1.9% | 12 3.5% | 10 1.2% | 7 3.4% | 7 1.3% | 3 1.1% | 5 3.0% |
| 比較的相互依存的 | 135 11.4% | 41 12.0% | 94 11.2% | 22 10.7% | 55 10.3% | 37 13.3% | 21 12.8% |
| 相互依存的 | 83 7.0% | 25 7.3% | 58 6.9% | 17 8.3% | 39 7.3% | 13 4.7% | 14 8.5% |
| $\chi^2(P)$ | | 29.371***(.000) | | 20.235(.063) | | | |

***P<.001

(五) 政治的疎外感

政治的疎外感⁽¹⁹⁾はジョージ・ボルチ (George I. Balch) が分類した、政府の応答性に関する「外的政治的有効性感覚 (External Political Efficacy)」と自己の能力に関する「内的政治的有効性感覚 (Internal Political Efficacy)」とに区別し、それぞれ二つの質問をした。前者については政府の国民意見収斂度と、政府の問題解決能力とを質問し、後者については政治参加意欲と、政治に対する認知度とを質問した。以下の質問に対して「そうである」と答えた場合には三点を、「分からない」と答えた場合は二点を、「そうではない」と答えた場合には一点の点数を与えた。

「政府は私みたいな人の意見には関心がない」という設問に、「そうである」は五二・八%、平均二・二四 (H87) と現れた。「現在政府は我が国の重要問題を解決する能力がないように見える」という設問に「そうである」は六九・七%、平均二・四八 (H88) で、性別によっては女子は平均二・五七、男子は平均二・四五で、女子が政府の問題解決能力により不信感を持っていた (P<0.5)。

「私のような人が政府の政策に影響を及ぼす方法は選挙での投票だけだ」に対してそうだと答えたのは三八・三%、平均一・八五 (H89) で、国民が政府の政策に影響を与える方法は選挙以外にもあるという意見が五三・四%と比較的に高い。これは性別による差はないが、一年生は平均一・七八、二年生は平均一・九〇、三年生は平均一・七四、四年生は平均一・九五と現れ、二年生と四年生が最も政治参加意欲が低い (P<0.5)。

また政治に対する認知度に対しては「政治はあまりにも複雑で、なにが何だか分からない」という設問に「そうである」は一九・七%、「そうでない」は六五・六%で、大学生は比較的政治に対する認知度は高い傾向だった。これは平均一・五四 (H80) で、女子は平均一・七二、男子は平均一・四七で、女子の方がより政治に対する認知程度

が低い ($P<.001$)。

全体的な大学生の政治的疎外感は平均二・〇三 ($t=3.8$) で普通程度の水準であり、女子は平均二・〇八、男子は平均二・〇一で、女子の政治的疎外感がより高く ($P<.05$)、学年間に統計的に有意な差はない。

(六) 政治満足度

大学生は現在の韓国政治と日韓関係にどのくらい満足しているのか、五点尺度で調べた。韓国政治に対して「かなり不満である」は五七・二%、「やや不満である」は三〇・七%、「普通である」は九・三%、「やや満足である」は二・六%、「かなり満足である」は〇・三%で、大学生らは韓国の政治

表9 大学生の政治的疎外感

| | 政府の国民意見 収斂度 | 政府の問題 解決能力 | 政治参加意欲 | 政治に対する 認知度 |
|-------|----------------|---------------|------------|---------------|
| そうでない | 344(29.1%) | 252(21.3%) | 632(53.4%) | 776(65.6%) |
| 分からない | 214(18.1%) | 106(9.0%) | 99(8.4%) | 174(14.7%) |
| そうである | 625(52.8%) | 825(69.7%) | 452(38.2%) | 233(19.7%) |

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 政府の国民 意見収斂度 | 2.24 (.87) | 2.20 (.86) | 2.25 (.88) | 2.28 (.86) | 2.24 (.87) | 2.21 (.89) | 2.23 (.89) |
| | t・F(P) | 1.062(.289) | | .296(.828) | | | |
| 政府の問題 解決能力 | 2.48 .82 | 2.57 .77 | 2.45 .84 | 2.49 .83 | 2.50 .81 | 2.49 .84 | 2.42 .83 |
| | t・F(P) | -2.415*(.016) | | .398(.754) | | | |
| 政治参加 意欲 | 1.85 .95 | 1.83 2.14 | 1.86 .95 | 1.78 .92 | 1.90 .95 | 1.74 .94 | 1.95 .95 |
| | t・F(P) | .535(.593) | | 2.776*(.040) | | | |
| 政治に対する 認知度 | 1.54 .80 | 1.72 .84 | 1.47 .77 | 1.54 .79 | 1.57 .83 | 1.50 .77 | 1.51 .79 |
| | t・F(P) | -4.793***(.000) | | .561(.641) | | | |
| 政治的 疎外感 | 2.03 .53 | 2.08 .53 | 2.01 .54 | 2.02 .53 | 2.05 .53 | 1.98 .55 | 2.03 .53 |
| | t・F(P) | -2.076*(.038) | | .996(.394) | | | |

* $P<.05$ *** $P<.001$

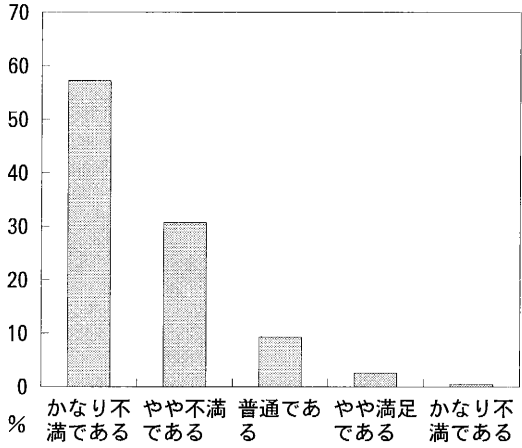


図1 韓国政治満足度分布図

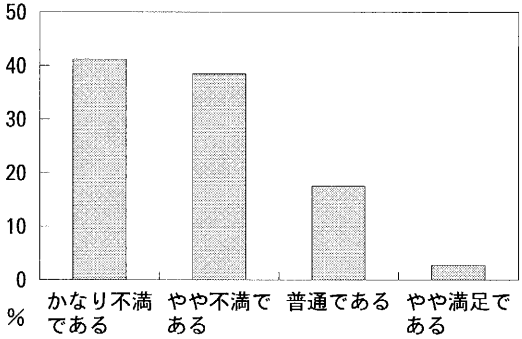


図2 日韓関係満足度分布図

韓国政治に対して「かなり不満である」と答えた人は五七・二％であったことに比べ、不満である」は、四一・二％である。韓国政治に対して「やや不満である」は三〇・七％に比べ、日韓関係において「かなり不満である」は九・三％に比べ、一七・五％である。韓国政治に「やや満足である」と答えた人は二・六％であったことに比べ二・七％、韓国政治に「かなり満足である」と答えた人は〇・三％であったが、日韓関係にかなり満足している回答者はいなかった。韓国政治と日韓関係と

韓国人の血・地・知、そして日本

に対して大部分が不満を感じている。政治満足度は平均一・五九（+1.79）で、性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。また、日韓関係満足度の平均は一・八三（+1.82）で、非常に不満ではあるが、韓国政治に対してよりは不満の程度が低い。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

表10 韓国政治満足度

| | 全体 (n=1,179) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=342) | 男子 (n=837) | 1年生 (n=203) | 2年生 (n=534) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 1.59 | 1.55 | 1.60 | 1.64 | 1.57 | 1.55 | 1.63 |
| SD | (.79) | (.76) | (.80) | (.81) | (.76) | (.79) | (.84) |
| t・F(P) | | -.969(.333) | | .807(.490) | | | |

| 韓国政治に | 全体 (n=1,179) | | 学年 | | | | | | | |
|-------|-----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
| | | | 1年生 (n=203) | | 2年生 (n=534) | | 3年生 (n=278) | | 4年生 (n=161) | |
| かなり不満 | 674 | 57.2% | 110 | 54.2% | 308 | 57.7% | 166 | 59.7% | 90 | 54.9% |
| やや不満 | 362 | 30.7% | 66 | 32.5% | 162 | 30.3% | 83 | 29.9% | 51 | 31.1% |
| 普通 | 109 | 9.3% | 20 | 9.9% | 52 | 9.7% | 20 | 7.2% | 17 | 10.6% |
| やや満足 | 31 | 2.6% | 7 | 3.4% | 12 | 2.2% | 7 | 2.5% | 5 | 3.1% |
| かなり満足 | 3 | 0.3% | | | | | 2 | 0.7% | 1 | 0.6% |
| | 1,179 | 100% | 203 | 100% | 534 | 100% | 278 | 100% | 164 | 100% |

表11 日韓関係満足度

| | 全体 (n=1,174) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=341) | 男子 (n=833) | 1年生 (n=203) | 2年生 (n=533) | 3年生 (n=276) | 4年生 (n=162) |
| M | 1.83 | 1.77 | 1.85 | 1.80 | 1.83 | 1.84 | 1.84 |
| SD | .82 | .79 | .83 | .83 | .83 | .79 | .84 |
| t・F(P) | | -1.611(.107) | | .138(.937) | | | |

| 日韓関係に | 全体 (n=1,174) | | 学年 | | | | | | | |
|-------|-----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
| | | | 1年生 (n=203) | | 2年生 (n=533) | | 3年生 (n=276) | | 4年生 (n=162) | |
| かなり不満 | 484 | 41.2% | 90 | 44.3% | 220 | 41.3% | 106 | 38.4% | 68 | 42.0% |
| やや不満 | 452 | 38.5% | 72 | 35.5% | 204 | 38.3% | 117 | 42.4% | 59 | 36.4% |
| 普通 | 206 | 17.5% | 36 | 17.7% | 93 | 17.4% | 47 | 17.0% | 30 | 18.5% |
| やや満足 | 32 | 2.7% | 5 | 2.5% | 16 | 3.0% | 6 | 2.2% | 5 | 3.1% |
| かなり満足 | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| | 1,174 | 100% | 203 | 100% | 533 | 100% | 276 | 100% | 162 | 100% |

に満足している回答者の比率はそれぞれ二・九%、二・七%でかなり少ない。

「韓国政治満足」変数と「日韓関係満足」変数をクロスしてみると、韓国政治にも、日韓関係にもかなり不満である学生の比率は三一・四%で、三分の一近い。韓国政治にかなり不満である人の五四・七%が日韓関係にも不満を持ち、日韓関係にかなり不満である人の七六・二%は、韓国政治にもかなり不満を感じていることになる。やや不満まで合わせると実に九七%の人が不満を感じている。逆に韓国政治に不満を感じている人の八六・二%が、日韓関係にも不満を感じている。

第二章 韓国大学生の日本イメージの構造

第一節 日本イメージの構造

第一項 潜在的な日本イメージ

鄭大均は、『日本のイメージ―韓国人の日本観』のなかで、「韓国人の対日観に特徴的なのは、反日と親日、反発と誘引、敵意と敬意が交錯するアンビバレンスの性格⁽²⁰⁾」であると指摘した。このようなアンビバレンスは、韓国のジャーナリズムが描く日本像でもある。磯崎典世も、「韓国と言うと日本を否定的に

韓国人の血・地・知、そして日本

表12 韓国政治満足度と日韓関係満足度とのクロス表

| | | 日韓関係 | | | | | | | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|------|-------|-----|-------|------|-------|-------|-------|
| | | かなり不満 | | やや不満 | | 普通 | | やや満足 | | | |
| 韓国政治 | かなり不満 | 369 | 54.7% | 212 | 31.5% | 83 | 12.3% | 10 | 1.5% | 674 | 100% |
| | | | 76.2% | | 46.9% | | 40.3% | | 31.3% | | 57.4% |
| | やや不満 | 101 | 28.0% | 187 | 51.8% | 66 | 18.3% | 7 | 1.9% | 361 | 100% |
| | | | 20.9% | | 41.4% | | 32.0% | | 21.9% | | 30.7% |
| | 普通 | 8 | 1.7% | 44 | 9.7% | 48 | 23.3% | 5 | 15.6% | 105 | 8.9% |
| | やや満足 | 6 | 1.2% | 8 | 1.8% | 8 | 3.9% | 9 | 28.1% | 31 | 2.6% |
| | かなり満足 | | | 1 | 0.2% | 1 | 0.5% | 1 | 3.1% | 3 | 0.3% |
| | 全体 | 484 | 100% | 452 | 100% | 206 | 100% | 32 | 100% | 1,174 | 100% |

描くというイメージが強いが、見習うべき点を紹介する番組や記事も目についた。が、単に日本の肯定面を紹介するというよりは、日本より劣る面を指摘して対抗心を刺激し『韓国社会を改善する』ことが目的のように思われた。言及される肯定面も『勤勉で団結心が強い』、『職務に忠実で組織の論理を優先する』という論調が主で、『集団的な組織力』への称賛と警戒を示唆しており、若い人達も『日本人はいざとなると団結する』とのイメージをもっていた⁽²¹⁾とする。

今回の調査ではどのような結果が出たのか、以下順次に見ていく。設問で、「あなたは『日本』という言葉を聞いたとき、最初に何が思い浮かべますか。自由に答えて下さい」と尋ねた。その答えは多種多様であったが、およそ九カのカテゴリーに束ねることができた。その九カテゴリーの上位一〇位までが答え全体のうちの六三％を占める。順位は表一三の通りである。植民地支配・歴史認識・戦争の三項目に関する表現が全体の三三・七％で、三分の一を超えている。蔑視的表現・憎悪的表現も一四・七％に及ぶ。

国民の民族的同質性が高い日本の場合、国家と民族の区別が容易ではないのにも拘わらず、外国人が持っている「日本イメージ」において、「日本という国家」のイメージと「日本人という民族」のイメージとが異なることは、既に指摘されている⁽²²⁾。しかし、日本イメージを語る際、「国家と民族」の区別だけでは不十分である。外国人が持っている日本イメージにおいて「個人間」としての日本人イメージと「国家・民族の構成員」としての日本人イ

表13 日本という言葉から連想されること

| | | 全体(n=1,102) | |
|----|-------|-------------|-------|
| 1 | 蔑視的表現 | 129 | 11.7% |
| 2 | 植民地支配 | 121 | 11.0% |
| 3 | 経済大国 | 115 | 10.4% |
| 4 | 大衆文化 | 62 | 5.6% |
| 5 | 歴史認識 | 59 | 5.4% |
| 6 | 称賛 | 55 | 5.0% |
| 7 | 憎悪的表現 | 33 | 3.0% |
| 8 | 戦争 | 29 | 2.6% |
| 9 | 独島 | 23 | 2.1% |
| 10 | 開放的 | 14 | 1.3% |

イメージもまた違う。さらに「個人」と「国家・民族」との間に「集団・集合」としての日本人イメージの層が存在する。前述の九九のカテゴリを大別すれば、日本国家・政府に関するもの、日本民族・日本社会に関するもの、個人としての日本人に関するもの、日本の自然に関するもの、日本の風習に関するもの、韓国と関連するもの、その他の七つのカテゴリに分けることができる。このカテゴリから日本の自然、風習、韓国関連、その他などを除けば、韓国における日本イメージの構造は「国家としての日本イメージ」、「集団（民族・社会）」としての日本人イメージ、「個人としての日本人イメージ」の三層構造になっていると言える。

例えば、「国家としての日本イメージ」は、ライバル、軍国主義、好戦的、歴史歪曲、教科書歪曲、過去問題清算、帝国主義、植民地支配、韓日合併、神社参拝、侵略、壬辰倭乱（文禄・慶長の役）、神風特攻隊、大東亜戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争、強大国、経済大国、先進国、自由で開放的な国、住んでみたい国、行ってみたい国、韓国を虐める国、悪い国、天皇、島国、怖い国、近くて遠い国、縮小志向の国、などである。

「集団（民族・社会）」としての日本人イメージは、自由と束縛の共存、保守と進歩の共存、多様な文化、個人主義、集団主義、開放的な性意識、新世代などと、ゲーム、漫画、アニメーション、大衆音楽、ヘアスタイル、ファッション、キャラクター

韓国人の血・地・知、そして日本

表14 連想単語の範疇

| | | 全体(n=1,102) | |
|---|---------|-------------|-------|
| 1 | 日本国家・政府 | 523 | 47.5% |
| 2 | 日本人 | 304 | 27.6% |
| 3 | 日本社会・民族 | 177 | 16.1% |
| 4 | 日本の風習 | 30 | 2.7% |
| 5 | 韓国 | 26 | 2.4% |
| 6 | 日本の自然 | 10 | 0.9% |
| 7 | その他 | 32 | 2.9% |
| | | 1,102 | 100% |

表15 否定的・肯定的イメージの比率

| | 全体(n=1,102) | |
|-----|-------------|-------|
| 否定的 | 551 | 50.0% |
| 肯定的 | 220 | 20.0% |
| 中立 | 331 | 30.0% |

商品・電化製品が優れているなどである。

「個人としての日本人イメージ」は、個性が強い、執拗、残忍、右翼、女性、礼儀正しい、職人精神、親切、几帳面、誠実、小さい、勤勉、勤儉節約、団結心、先進的市民意識、統制された意識、二重性、サラリーマン、仕事の虫、日本人友達、かわいそうだ、非人間的、良心がない、チョッパリ、倭奴、狡猾だ、小さい、悪賢い、経済的動物、模倣上手、猛々しい、などである。

韓国学生たちが自由連想で思い浮かべる「日本イメージ」のなかで、「自由と束縛の共存、保守と進歩の共存、新世代、ゲーム、漫画、アニメーション、大衆音楽、ヘアスタイル、ファッション、サラリーマン」などの表現を中立的とし、好悪が明かなイメージを肯定的・否定的イメージとして分けてみると、大学生のイメージは全般的に否定的な傾向である。右のオープンテキストのなか、否定的イメージは五〇%であり、肯定的イメージは二〇・〇%である。

第二項 個人としての日本人イメージ

日本人のイメージについて自らが連想する単語でなく、韓国のマス・メディアが日本人を形容するとき頻繁に用いる単語のなかから二つを選択してもらった。そこで調査対象者らが認知した日本人のイメージは、「表と裏が違う」(二六・五%)、「経済的能力が優れている」(二六・四%)、「歴史認識が足りない」(二二・〇%)、「狡猾である」(一六・八%)、「模倣するのが上手」(一五・九%)、「親切で礼儀正しい」(一六・一%)、「協同団結心が強い」(一四・六%)、「勤勉誠実である」(一六・五%)、「職人精神がある」(一四・四%)、「残忍である」(四・一%)、「冷たい」

(五・七%)、「伝統と伝統文化を尊重する」(四・七%)であった。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

この結果から韓国の大学生が一般的に持っている日本人のイメージは「表と裏が違う」というイメージが最も多く、次に「経済的能力が優れている」、「歴史認識が足りない」、「狡猾である」の順となる。

表16 大学生の日本人イメージ

| | | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------------------|-----------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 1 | 本音と建て前 | 432 | 133 | 299 | 71 | 196 | 110 | 55 |
| | | 36.50% | 38.80% | 35.60% | 34.60% | 36.60% | 39.60% | 33.50% |
| 2 | 経済的能力 | 312 | 103 | 209 | 48 | 149 | 73 | 42 |
| | | 26.40% | 30.00% | 24.90% | 23.40% | 27.80% | 26.30% | 25.60% |
| 3 | 歴史認識不足 | 248 | 69 | 179 | 41 | 119 | 56 | 32 |
| | | 21.00% | 20.10% | 21.30% | 20.00% | 22.20% | 20.10% | 19.50% |
| 4 | 狡猾 | 199 | 46 | 153 | 43 | 88 | 40 | 28 |
| | | 16.80% | 13.40% | 18.20% | 21.00% | 16.40% | 14.40% | 17.10% |
| 5 | 勤勉誠実 | 195 | 53 | 142 | 29 | 78 | 56 | 32 |
| | | 16.50% | 15.50% | 16.90% | 14.10% | 14.60% | 20.10% | 19.50% |
| 6 | 親切礼儀正しい | 190 | 62 | 128 | 30 | 83 | 48 | 29 |
| | | 16.10% | 18.10% | 15.20% | 14.60% | 15.50% | 17.30% | 17.70% |
| 7 | 模倣 | 188 | 59 | 129 | 36 | 95 | 40 | 17 |
| | | 15.90% | 17.20% | 15.40% | 17.60% | 17.70% | 14.40% | 10.40% |
| 8 | 協同団結 | 173 | 39 | 134 | 29 | 66 | 55 | 23 |
| | | 14.60% | 11.40% | 16.00% | 14.10% | 12.30% | 19.80% | 14.00% |
| 9 | 職人精神 | 170 | 44 | 126 | 25 | 81 | 33 | 31 |
| | | 14.40% | 12.80% | 15.00% | 12.20% | 15.10% | 11.90% | 18.90% |
| 10 | 冷たい | 68 | 21 | 47 | 8 | 35 | 16 | 9 |
| | | 5.70% | 6.10% | 5.60% | 3.90% | 6.50% | 5.80% | 5.50% |
| 11 | 伝統と伝統文化尊重 | 56 | 14 | 42 | 13 | 21 | 11 | 11 |
| | | 4.70% | 4.10% | 5.00% | 6.30% | 3.90% | 4.00% | 6.70% |
| 12 | 残忍 | 48 | 21 | 27 | 10 | 25 | 8 | 5 |
| | | 4.10% | 6.10% | 3.20% | 4.90% | 4.70% | 2.90% | 3.00% |
| χ ² (P) | | | 4.011(.970) | | 15.304(.996) | | | |

第三項 国家・民族・集団としての日本イメージ

アメリカ、日本、中国、ロシア、北朝鮮の五カ国のなかで、サンプルの学生たちは今後韓国が最も親しくすべき国

表17 今後韓国が最も親しくすべき国

| | 全体 (n=1,170) | 性別 | |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|
| | | 女子 (n=339) | 男子 (n=831) |
| アメリカ | 108 9.2% | 26 7.7% | 82 9.9% |
| 日本 | 40 3.4% | 9 2.7% | 31 3.7% |
| 中国 | 400 34.2% | 118 34.8% | 282 33.9% |
| ロシア | 11 0.9% | 3 0.9% | 8 1.0% |
| 北朝鮮 | 611 52.2% | 183 54.0% | 428 51.5% |
| $\chi^2(P)$ | | 2.427(.658) | |

| | 全体 (n=1,167) | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 1 学年 (n=205) | 2 学年 (n=530) | 3 学年 (n=275) | 4 学年 (n=157) |
| アメリカ | 108 9.3% | 15 7.3% | 54 10.2% | 22 8.0% | 17 10.8% |
| 日本 | 39 3.3% | 5 2.4% | 15 2.8% | 8 2.9% | 11 7.0% |
| 中国 | 400 34.3% | 75 36.6% | 179 33.8% | 96 34.9% | 50 31.8% |
| ロシア | 11 0.9% | 0 0.0% | 5 0.9% | 3 1.1% | 3 1.9% |
| 北朝鮮 | 609 52.2% | 110 53.7% | 277 52.3% | 146 53.1% | 76 48.4% |
| $\chi^2(P)$ | | 14.374(.277) | | | |

として、北朝鮮(五二・二%)、中国(三四・二%)、アメリカ(九・二%)を挙げた。日本はわずか三・四%に過ぎない。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

最も警戒すべき国ではアメリカ(二六・一%)、日本(三二・四%)、中国(二四・一%)、北朝鮮(六・二%)

表18 今後韓国が最も警戒すべき国

韓国人の血・地・知、そして日本

| | 全体 (n=1,165) | 性別 | |
|-------------|-----------------|-----------------|---------------|
| | | 女子 (n=336) | 男子 (n=829) |
| アメリカ | 421 36.10% | 152 45.20% | 269 32.40% |
| 日本 | 378 32.40% | 77 22.90% | 301 36.30% |
| 中国 | 281 24.10% | 77 22.90% | 204 24.60% |
| ロシア | 13 1.10% | 7 2.10% | 6 0.70% |
| 北朝鮮 | 72 6.20% | 23 6.80% | 49 5.90% |
| $\chi^2(P)$ | | 28.620***(.000) | |

***P<.001

| | 全体 (n=1,162) | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 1 学年 (n=202) | 2 学年 (n=526) | 3 学年 (n=276) | 4 学年 (n=158) |
| アメリカ | 420 36.1% | 74 36.6% | 205 39.0% | 93 33.7% | 48 30.4% |
| 日本 | 377 32.4% | 59 29.2% | 155 29.5% | 101 36.6% | 62 39.2% |
| 中国 | 280 24.1% | 53 26.2% | 129 24.5% | 59 21.4% | 39 24.7% |
| ロシア | 13 1.1% | 1 0.5% | 6 1.1% | 4 1.4% | 2 1.3% |
| 北朝鮮 | 72 6.2% | 15 7.4% | 31 5.9% | 19 6.9% | 7 4.4% |
| $\chi^2(P)$ | | 12.767(.386) | | | |

(%)の順である。警戒すべき国については男女間に統計的に有意な差が見られる。最も警戒すべき国として、女子はアメリカ(四五・二%)を、男子は日本(三六・三%)を挙げている。学年間では、統計的に有意な差はない。親善・警戒などとは別に、韓国の発展モデルとして、最も見習うべき国としては、アメリカ(四四・四%)、日本(三三・一%)、中国(一六・八%)の順である。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

国家イメージとしての日本の位置を見るために比較対象として五カ国を取り上げ調査した。ただし、このような調査はすでに幾つか行われている。そのなかにも、韓国高麗大学の呉澤燮によって、一九八九年一〇月に韓国全国の一八才以上の男女二〇〇四人(サンプルは多段階層化確率比例

表19 最も見習うべき国

| | 全体 (n=1,059) | 性別 | |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|
| | | 女子 (n=311) | 男子 (n=748) |
| アメリカ | 470 44.40% | 136 43.70% | 334 44.70% |
| 日本 | 351 33.10% | 116 37.30% | 235 31.40% |
| 中国 | 178 16.80% | 49 15.80% | 129 17.20% |
| ロシア | 5 0.50% | 0 0.00% | 5 0.70% |
| 北朝鮮 | 55 5.20% | 10 3.20% | 45 6.00% |
| $\chi^2(P)$ | | 8.022(.091) | |

| | 全体 (n=1,165) | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | 1 学年 (n=181) | 2 学年 (n=480) | 3 学年 (n=256) | 4 学年 (n=139) |
| アメリカ | 468 44.3% | 68 37.6% | 221 46.0% | 117 45.7% | 62 44.6% |
| 日本 | 350 33.1% | 61 33.7% | 166 34.6% | 88 34.4% | 35 25.2% |
| 中国 | 178 16.9% | 36 19.9% | 67 14.0% | 42 16.4% | 33 23.7% |
| ロシア | 5 0.5% | 2 1.1% | 2 0.4% | 1 0.4% | 0 0.0% |
| 北朝鮮 | 55 5.2% | 14 7.7% | 24 5.0% | 8 3.1% | 9 6.5% |
| $\chi^2(P)$ | | 19.780(.071) | | | |

標本)を対象に行われた調査がある。これを本調査と比較してみると、約一二年間の間に韓国の若者の周辺国イメージがどのように変わったのかを垣間見ることができる。同一サンプルによる定点観測データではないが、多様なメディアによる各種世論調査の結果を総合的に考えると、この二つの調査結果の比較は、その間の若者の対外イメージの変化を如実に表していると見てよい。冷戦の崩壊からのこの一二年間、北朝鮮への親近感倍近く増え、中国への親

近感も一〇%近く増えた。その反面、アメリカへの親近感と日本への親近感が大幅に減っている。一方、北朝鮮への警戒心は三分の一くらい減り、日本への警戒心も減っている。アメリカと中国への警戒心はかなり強まり、日本への警戒心が弱まっているが、それは見習うべき国としてアメリカ

表20 1989年10月現在の対五カ国認識

| | アメリカ | 日本 | 中国 | ソ連 | 北朝鮮 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 親しくすべき国 | 23.5% | 8.6% | 25.3% | 8.1% | 29.1% |
| 警戒すべき国 | 15.4% | 42.5% | 2.6% | 11.1% | 19.2% |
| 見習うべき国 | 19.5% | 49.8% | 5.6% | 1.3% | 0.7% |

表21 2001年6月現在の対五カ国認識

| | アメリカ | 日本 | 中国 | ロシア | 北朝鮮 |
|---------|-------|-------|-------|------|-------|
| 親しくすべき国 | 9.2% | 3.4% | 34.2% | 0.9% | 52.2% |
| 警戒すべき国 | 36.1% | 32.4% | 24.1% | 1.1% | 6.2% |
| 見習うべき国 | 44.4% | 33.1% | 16.8% | 0.5% | 5.2% |

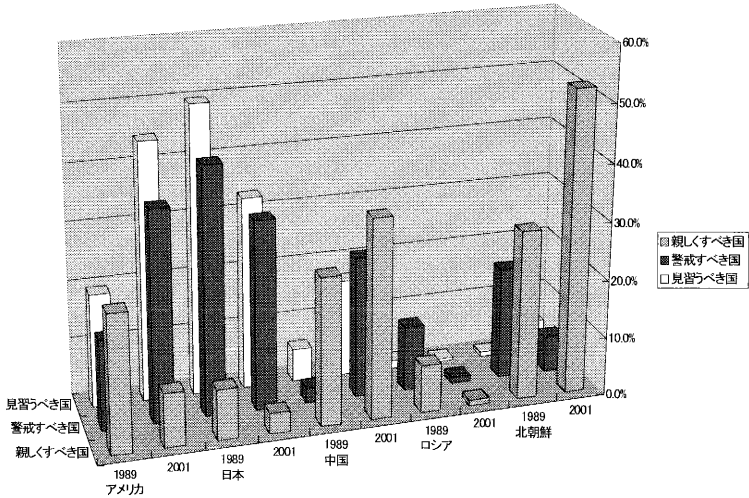


図3 1989年と2001年の五カ国イメージの比較

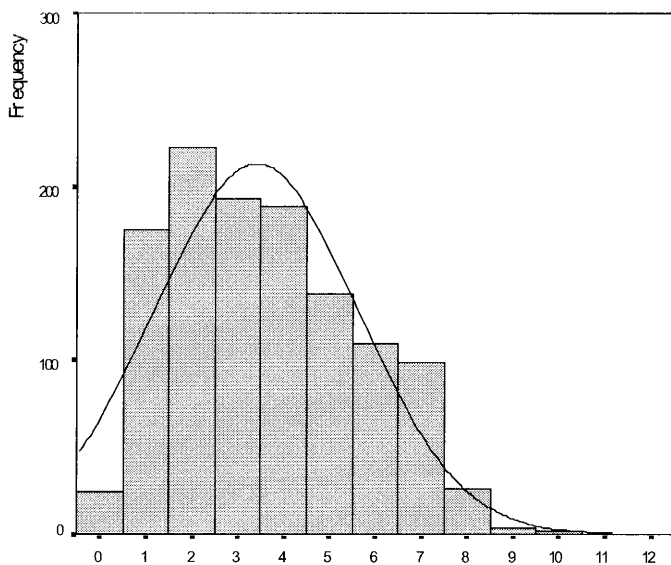
カと中国の比率がかなり上がっていることと合わせれば、韓国が置かれている経済的位置を強く意識しているものとして解釈できる。日本は警戒すべき国でありながらも、見習うべき国であるというパターンは変わっていない。しかし、一二年前に比べ、相対的にその存在感が薄くなっていることは否めない。

また、「あなたは『日本』という国についてどう思いますか。非常に嫌っているなら○点、普通な

ら五点、非常に好きであれば一〇点とすれば、何点を与えますか」(日本好感点数)と尋ねた。日本好感点数は、大学生四・二四で「日本という国は若干嫌い」という評価である。次に、「日本人は『韓国』という国についてどう考えていると思いますか。非常に嫌っていると思うなら〇点、普通であろうと思うなら五点、非常に好きであると思うなら一〇点とすれば、何点を与えますか」(韓国好感点数)と尋ねた。平均四・三で、「日本人は韓国という国が若干嫌い」だろう、という評価をしている。

第四項 日本人との社会的距離

サンプルの大学生たちが日本人とどれくらい距離感を感じているのか、社会的距離を測ってみよう。社会的距離の尺度としては、七項目の質問から他の人種に対する偏見や差別意識を測ろうとするボガードスの尺度²⁴がよく使われている。本稿においてはそれを部分的に修正し、「日本人との結婚」、「日本に永住」、「日本人上司との勤務」、「自分の子どもを日本人教師に預けるか」の可否に、日本訪問／居住経験、日本人友達有無、日本語学習、日本との文化・スポーツ交流に対する関心を加えて構成した。この中で「日本人との結婚」と「日本に永住」に対しては加重値を与え総一二点にした後、逆算して好感度が低いほど距離が遠いことにした。すなわち〇点が最も近く、一二点が最も遠いことになる。換算した結果、日本人との社会的距離の平均は三・六で、比較対象はないにしても割と近い方と言える。回答者とその家族が日本人と結婚すること、自分の子どもが日本人教師から指導を受けることに対して同じく四〇・二%が賛成を、日本人上司の下で勤めることに対しては三〇・五%が賛成し、日本に永住することに対しても



三六・〇％が賛成している。

図4 日本人との社会的距離

表22 日本人との社会的距離

| | |
|--------------|-------------|
| | 全体(n=1,183) |
| 日本人との結婚 | 476 (40.2%) |
| 子女に日本人先生 | 476 (40.2%) |
| 日本人上司と勤務 | 361 (30.5%) |
| 日本に永住 | 426 (36.0%) |
| 日本訪問/居住経験 | 143 (12.1%) |
| 日本人友達有無 | 216 (18.3%) |
| 日本語学習 | 861 (72.8%) |
| 日本との文化スポーツ交流 | 402 (34.0%) |

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 3.60 | 3.69 | 3.57 | 3.34 | 3.53 | 3.95 | 3.61 |
| SD | 1.97 | 2.00 | 2.06 | 1.95 | 2.03 | 2.12 | 1.97 |
| t・F(P) | | .942(.346) | | 4.144**(.006) | | | |
| | | | | a | ab | b | ab |

**P<.01

第五項 日本との距離

「日本国家」との距離は、「日本国家好感度点数」、「日本人が考える韓国の好感度点数」、「朝鮮半島の分断の原因は日本の植民地支配にある」の三変数で構成した。まず、日本国家好感度点数と日本人が考える韓国の好感度点数を五点尺度に再調整し、好感度が低いほど距離が遠いことにした。五点尺度である「朝鮮半島の分断の原因は日本の植民地支配にある」も「非常にそう思う」ほど日本国家との距離が遠いとして、日本国家との距離を算出した。したがって

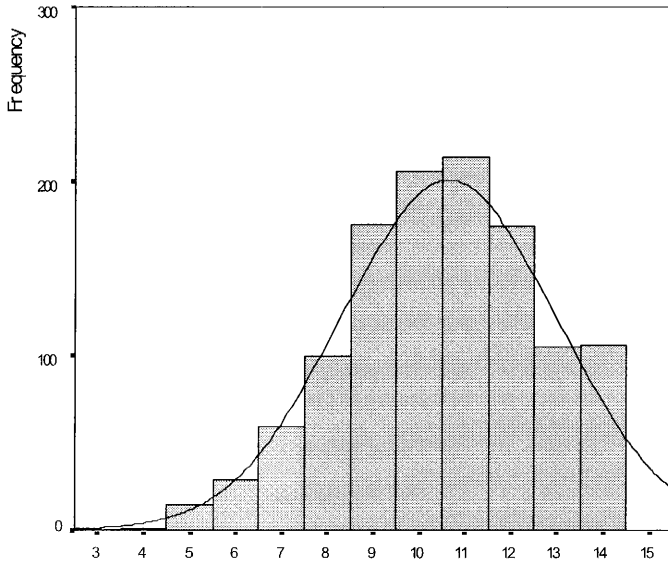


図5 日本国家との距離

表23 日本国家との距離

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 10.50 | 10.43 | 10.53 | 10.51 | 10.48 | 10.65 | 10.32 |
| SD | 2.17 | 2.00 | 2.23 | 2.27 | 2.15 | 2.04 | 2.31 |
| $\chi^2(P)$ | | -.728(.467) | | .857(.463) | | | |

日本国家との距離は最小三点、最大一五点である。大学生の日本国家との距離は平均一〇・五〇で、日本に対してだいたい距離感を感じると現れた。性別、学年間に統計的に有意な差はなかった。

第六項 日本関心度

日本関心度は「日本の言葉を知りたいか」に対する答えで推論することにする。日本語を学習しているか、あるいは日本語を学ぶことを希望する学生は七二・八％で、日本に対する関心は高いと言える。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

第二節 日本イメージの源泉

ハミルトン (D. L. Hamilton) は、異なる社会、異なる制度的水準における集団への偏見が形成される要因として、偏見を持つ「重要な他者」からの「社会的影響」、限られた資源をめぐる競争、敵対する外集団への攻撃を正当化するような「集団間競争」、蓄積した欲求不満を解消するため、誰かをスケープゴート化する「欲求不

韓国人の血・地・知、そして日本

表24 日本関心度

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| ない | 322 27.2% | 80 23.3% | 242 28.8% | 64 31.2% | 149 27.8% | 69 24.8% | 40 24.4% |
| ある | 861 72.8% | 263 76.7% | 598 71.2% | 141 68.8% | 387 72.2% | 209 75.2% | 124 75.6% |
| $\chi^2(P)$ | | 3.700(.054) | | 3.217(.359) | | | |

***P<.001

満の蓄積」、「差別条項の設定などの政治的要因」、「誤った関連づけ (Illusory correlation)⁽²⁵⁾」などをあげている。⁽²⁶⁾

また、社会的・制度的に既に存在しているこうした偏見は、個人が無批判に受容・同調することで維持され、偏見を持つ人々による自己充足的予言の帰結として強化される。ある集団に対して特定の偏見を持っている人は、その集団の成員に対しても否定的・非好意的な評価を一般化する傾向がある。また、特定集団に対する偏見を持つ人は、その集団の成員が行う行動のうちに自らの偏見に合致する情報のみを記憶すると同時に、それを成員の永続的な固有属性によるものとみなし成員自身のうちに原因を帰属させる傾向がある。反対に、偏見に合致しない行動は無視するか、成員以外の状況的要因に原因を外部帰属させ、一時的なものとみなす傾向もある。また、偏見は容易に生成されるものであるが、その解消は困難なこともされる。⁽²⁷⁾

認知的不協和の理論 (Theory of Cognitive Dissonance) においては、人々は自らが持つ二つの情報の間に不一致が生じると、矛盾する一方の認知を無意識に変更し、不一致を低減する傾向があるとする。⁽²⁸⁾ また、人々がある決定を下した後その決定を再評価し、そのとき決定された代案に対しては決定前のもよりも肯定的に評価し、拒否された代案に対しては評価を下げるとする。⁽²⁹⁾

韓国の大学生は、彼らの「日本・日本人イメージ」形成に影響を与える日本に関する情報をどこから得ているだろうか。鄭在貞らが一九九一年に実施したアンケート調査によれば、学生たちは日本に対する知識を主に教科書と学校の教師を通じて獲得し、日本に対するイメージがマス・メディアを通して形成されるとした。鄭在貞は「教科書のかなかでも日本に対する記述が⁽³⁰⁾一番多く、またほぼ一〇〇%の学生が学ぶ中高の『国史』教科書の影響は絶対的といっても過言ではない」とする。一方、呉澤燮の一九八九年調査においては「教科書が対日態度 (イメージ) を結晶化

(crystallize) するのに絶対的に寄与しており、新聞、放送、雑誌と行ったマス・メディアは既存の態度を補強するのに止まっている」(括弧内は原文³¹⁾)とする。

一〇年以上の年月が経った今でもその命題は有効であろうか。

サンプルの学生たちに、自分の「日本・日本人イメージ」形成に最も影響を与えたと思う媒体を二つ選んでもらったところ、最も影響を与えた媒体はテレビであった。自分の「日本・日本人イメージ」形成に最も影響を与えたと思う媒体としてテレビと答えた比率は四九・九%であり、本と雑誌が四六・九%、新聞報道は三四・八%、インターネットは五・九%である。全体的に学校の教育よりはテレビ・新聞・出版物などメディアの影響が大きい。しかし、学校教育と答えた比率も三六・二%であり、教育の影響をかなり自覚している。以上の結果から、筆者は今回の調査の結果、呉澤燮の一九八九年調査と、鄭在貞らの一九九二年の調査との結果の定義を、次のように修正したい。すなわち、「韓国の学生たちは日本人に対するイメージを主にマス・メディアから得る。学校教育はそれを公認する役割をする」と。

第三節 韓国人のアイデンティティと日本イメージの連続性

アイデンティティは、エリクソン (Erik H. Erikson) が一九五九年に彼の人格発達理論における青年期の心理社

韓国人の血・地・知、そして日本

表25 「日本・日本人イメージ」の源泉

| | | 全体(n=1,182) | |
|----|---------|-------------|-------|
| 1 | テレビ放送 | 590 | 49.9% |
| 2 | 本と雑誌 | 554 | 46.9% |
| 3 | 学校教育 | 428 | 36.2% |
| 4 | 新聞報道 | 411 | 34.8% |
| 5 | インターネット | 70 | 5.9% |
| 6 | 日本友達 | 91 | 7.7% |
| 7 | 日本訪問 | 73 | 6.2% |
| 8 | 先輩友達 | 65 | 5.5% |
| 9 | 家族・親戚 | 39 | 3.3% |
| 10 | 分からない | 12 | 1.0% |

会的危機を示す用語として用いて以来、辞典などの定義において、独自性、同一性、自己の存在証明、自己同一性、自我同一性、主体性、自己確認、帰属意識など、多様な訳語でもって説明されている⁽³²⁾。しかし、共通しているのは、「自分は何ものであるか」を追求する自己確認が、「自己を社会のなかに位置づける」ことのなかで行われている、ということである。特に、馬場伸也は、アイデンティティとは、「歴史の創造に主体的にかかわっていこうとする自我⁽³³⁾」であり、「自己の内・外部に、自分がなにものであるかを確立することである⁽³⁴⁾」と定義する。言い換えれば、アイデンティティとは「歴史における自己の存在証明を求めること」であるが、「それはパスカルのいう『神なき人間』が、神のかわりに歴史の中に自己を位置づけ、その存在理由の確証を得ようとすると同時に、時間的に限定された自己を超越して、歴史の永遠性に帰依しようとする精神作用を指す⁽³⁵⁾」。そのアイデンティフィケーションのよりどころを民族的アイデンティティに求める動きは、一九世紀のアイランド民族運動の例に見られるように、自分たちを結びつけている共通の利害、共通の歴史、共通の運命への意識の高まりを導く⁽³⁷⁾。ところが、ある集団における自己の所属性が強く意識されると、集団間の境界が明確になり、集団間の偏見・葛藤がしばしば引き起こされる。

韓国人のアイデンティティ問題は日本イメージにどのように影響しているのだろうか。

右の表25に見られるように、日本イメージの源泉として、日本訪問（滞在）経験や日本人友達との付き合いなどの直接的体験と、家族・親族との話し合いや先輩・友達との話し合いなどの一次集団による影響はかなり少ない。サンブルのなかで日本訪問経験がある学生は一二・一％であったことと、さらに訪問経験者のなかでも、日本イメージの源泉として「日本訪問」を挙げた学生が五〇・〇％だったことを考慮すれば、日本イメージの源泉として「直接体験」が少ないことはうなずける。しかし、「家族・親族との話し合い」の影響が少ないということは考察の余地がある。

サンプルの学生の大きな日本人イメージは、「表と裏が違う」三六・五％、「経済的能力」二六・四％、「歴史認識が不足」二一・〇％、「狡猾である」一六・八％、「勤勉誠実である」一六・五％、「親切で礼儀正しい」一六・一％、「摸倣するのが上手」一五・九％、「協同団結心が強い」一四・六％、「職人精神がある」一四・四％、「冷たい」五・七％、「伝統と伝統文化を尊重する」五・四％、「残忍である」四・一％の順であることは前述したが、一九六〇年代以降、韓国が日本を経済成長のモデルとして以降、マス・メディアなどから植え付けられたイメージは、日本の経済発展の根源としての「協同団結心」、「勤勉誠実」、「職人精神」などである。このなかで、「表と裏が違う」、「狡猾である」など否定的イメージのルーツは遙かに遠く、倭寇の活動が活発であった一三世紀後半から一四世紀にまで遡ると考えられる。「表と裏が違う」、「狡猾である」という日本イメージはその時期から朝鮮王朝の前期頃までに形成され、文祿・慶長の役を契機に決定的になったと考えられる。朝鮮時代における「公定日本人イメージ」が如何なるものであったかは『朝鮮王朝実録』によく現れている。

『朝鮮王朝実録』は、朝鮮王朝二七代、五一八年間に渡り、始祖である太祖から二五代哲宗までの四七二年間（一三九二—一八六四）の歴史を編年体で記録した、全八八八冊、一八九三巻から成る膨大な歴史記録である。³⁸そのなかから「倭人」に関する記録を、文祿の役（一五九二年）を分水嶺として前後期に分け、更にそれを前後期の四期に分けて考えてみる。上記の表と図の通り朝鮮建国から九代成宗まで（一三九二—一四九三）に一三二〇件、一〇代燕山君即位から一四代宣祖二四年（一四九四—一五九二）までに九一〇件、宣祖二五年から一九代肅宗（一五九二—一七二〇）までに九二三件、二〇代景宗から二五代哲宗（一七二一—一八六四）までに一三三件で、総三二七六件の記録がある。

朝鮮半島は七世紀頃から倭寇に悩まされてきたが、一四世紀高麗末の倭寇の横行は王朝交替の遠因にもなるほどだった。⁽³⁹⁾ そのため、朝鮮建国初期に当たる第一期では「倭人」を盗賊、擄略、略奪、侵奪を恣行する「島夷」として認識している。第二期に移行するにつれ、盗賊のイメージは減っていくが、対馬との「羈糜交隣」⁽⁴¹⁾のなかで、倭人を奸詐、狡猾であるとする記述が多くなる。やがて奸詐のイメージは減っていくが、狡猾であるとのイメージは第三期に至るまで増え続け、前期二〇〇年の間に五一件あったのが、第三期の一二年間には八〇件にもなる。それは文祿・慶長の役（宣祖二五、一五九二年）の影響が大きいためだと思われる

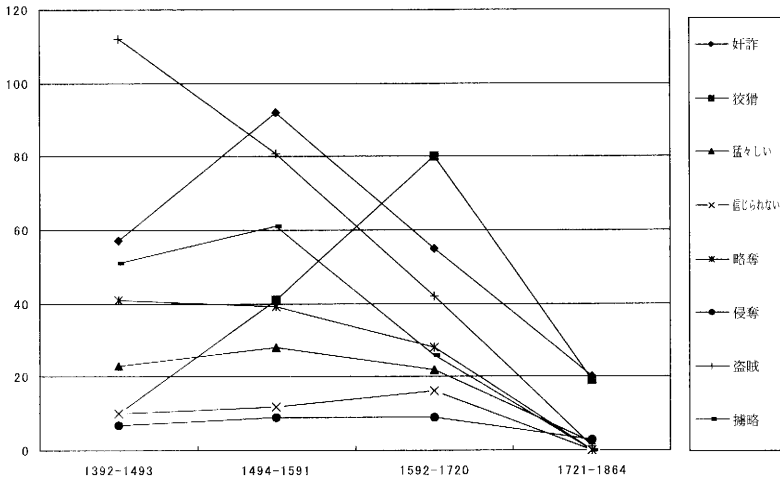


図6 『朝鮮王朝実録』から見る日本人イメージ

表26 『朝鮮王朝実録』から見る日本人イメージ

| | 期間 | 全体 | 盗賊 | 奸詐 | 狡猾 | 擄略 | 略奪 | 猛暴 | 不信 | 侵奪 | 合計 |
|----|-----------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 1期 | 1392-1493 | 1,310 | 112 | 57 | 10 | 51 | 41 | 23 | 10 | 7 | 311 |
| 2期 | 1494-1591 | 910 | 81 | 92 | 41 | 61 | 39 | 28 | 12 | 9 | 363 |
| 3期 | 1592-1720 | 923 | 42 | 55 | 80 | 26 | 28 | 22 | 16 | 9 | 278 |
| 4期 | 1721-1864 | 133 | 1 | 20 | 19 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 45 |
| | | 3,276 | 236 | 224 | 150 | 138 | 108 | 75 | 38 | 28 | 997 |

る。

文禄の役から約一三〇年後の一七一九年、徳川吉宗の將軍襲職慶賀に來日した第九次通信使節の隨員の一人で、通信使の文書をつかさどる製述官であった申維翰は、見聞記『海游録』を残している。彼は、日本には朝鮮のように正装喪服を着用する慣習がないことや孔子に対する正式な礼拝儀式がないことなどを嘆き、日本人は生來善良ではあるが、『道』を知らない」と述べている。一方、『海游録』の中には文化的側面に対立するものとしての日本の物質的側面についての賛辞が溢れている。⁽⁴²⁾ その申維翰と雨森芳州との間で当時、次のような對話が交わされた。

まず、雨森が次のように質した。「日本と貴国は、海を隔てて隣国であり、互いに信義を致す。敝邦の人民はみな、朝鮮王国と寡君が敬礼の書を通じていることを知っており、ゆえに公私の文簿には、必ず崇極を致している。しかし、ひそかに貴国人の撰する文集を見るに、その中で言葉が敝邦に及ぶところは必ず、倭賊、蛮酋と称し、醜蔑狼藉、言うに忍びないものがある。我が文昭王（徳川家宣）がその末年に、たまたま朝鮮文集を見て、群臣たちに曰く、『あにはからんや、朝鮮が我を侮ることここに至らんことを』と、終生憾みに思っていた。こんにち諸公たちは、この意を知るや否や」。すると申維翰は、次のように答えた。「その意はおのずから容易に知りうるどころだが、顧みるに、貴国こそ、諒解していかないようだ。君が見た我が国の文集とは、何人の著であるかは知らぬが、しかしこれすべて壬辰の乱（文禄・慶長の役）の後に刊行された文であろう。豊臣秀吉は我が国の通天の讐であり、宗社の恥辱、生霊の血肉、実に万世になかった変である。我が国の臣民たる者、誰か、その肉を切り刻みて食わんと思わぬ者がいようか。上は薦紳から下は厮隸にいたるまで、これを奴といひ賊といひてかえりみないようになり、それが文章に反映したとしても、もとより当然のことであろう」。⁽⁴³⁾

これは文禄・慶長の役から約一三〇年後の記述であるが、朝鮮人に文禄・慶長の役が残したトラウマと怨嗟の念が
 いかにか深かったかを如実に示してくれる。そして、文禄・慶長の役以降の第三期（一五九二—一七二〇）においては、
 前期に比べ遙かに多く言及されることになるのが「狡猾な倭人」という表現である。朝鮮は、小西行長らの第一軍が
 釜山浦に上陸して僅か二ヵ月あまりで全土を蹂躪された。⁽⁴¹⁾ 対馬を介にしてのみ日本を見ていた朝鮮としては、その虚
 像と実像のあまりにも大きな隔たりに「狡猾」といふしか、日本を表現する言葉を見いだせなかったかも知れない。

第四期では、日本を見る日が現実的になり、観念的記述はかなり減っていく。それは一六〇七（慶長一二）年から
 一八一—（文化八）年までの一二回、江戸幕府に朝鮮通信使が往来し日本に関する情報が蓄積されたことによる対日
 観の変化の結果であろう。政権から突き放されていた両班などの対日認識も一七世紀後半から一九世紀前半にかけて
 は変わっていく。この時期には、これまでの伝統儒学から脱皮し自然科学の知識と技術を重んじ、「實事求是」、「利
 用厚生」を掲げた「実学」が台頭する。従って、李滉（一六八一—一七六三）、安鼎福（一七二二—一七九一）、朴趾
 源（一七三七—一八〇五）などが活躍する頃からは、基本的には儒教的な文明観から日本を眺めつつも、同時に日本
 と朝鮮との差を認めざるを得なくもなる。⁽⁴⁵⁾

しかし、百姓の間では、文禄・慶長の役以降の「日本に対する敵愾心、それから儒教的尺度からみての野蛮さ、侮
 蔑」が鎖国の下で、さらにそれに続く植民地支配の下で培養増殖され、「祖母のひざ元で、しよっちゅう聞かされ」、⁽⁴⁶⁾
 そして延々と続いてきたであろう。

また、現在においても、韓国の田舎には文禄・慶長の役で戦死した祖先を祀る霊廟が町内にあって、人々が毎年参
 拝してはその祖先が成し遂げたことを回想するなど、祖先の物語が現在なお生活の中に息づいている。韓国では、族

譜・墳墓の管理・祭祀の執行が社会的権威を獲得する上で重視され、族譜編纂の意味は大きい。韓国人の家庭に必ずと言ってよいほど備置されている族譜においては、祖先の多くが文祿・慶長の役で活躍した事例が多く、彼らが公式的な文書、歴史物語のなかに登場することも珍しくない。そのような民族の記憶と結びついた個人の記憶が韓国人の潜在意識として燻っているに違いない。

韓国の小学校二年の教科書『正しい生活』に「族譜」という物語がある。小学校二年生の「サンスウ」は曾祖父の法事の日、祖父から族譜について話を聞く。祖先のなかに親孝行をして褒章を受けた人や国のために命を捧げた人がいることを聞き、家門の祖先を誇らしく感じる。そして、「サンスウ」は祖先に肖らなければと固く決意する、という内容である。児童たちがこの物語を学ぶ際には、宿題として自分の家門の族譜を調べさせられ、偉大なる祖先が誰なのかを知るようになるのはもちろんのことである。このようにして、族譜は個人と門中、ひいては社会との関係を表象する記号としての意味を持つものとして、神聖視される。

前述した申維翰の場合、本貫は寧海である。寧海申氏の族譜には文祿・慶長の役に活躍したとする申演（一五三四―一五九五）、申経済（一五五五―一六一四）、申智男（一五五九―一六三五）の名が連なっている。小学二年生の申サンスウが族譜に登場する祖先のことを聞いて、日本に対してどのようなイメージと感情とを持つようになるかは想像に難くない。

このように、族譜を通じて、私的な家族史と氏族の歴史とが、王朝の歴史に繋がり、国家レベルの歴史として統合され、個人の記憶が国家の記憶と一体化する。そして、現在の自己の位置が「国の歴史」によって作られてきたという歴史認識になるのである。歴史認識の背後に、親族体系が、いわばイデオロギーとして深く根を下ろしており、毎

年繰り返される門中の祭事、国家の記念日などの年中行事が四〇〇年も前の歴史を昨日のごとく想起させる役割を果たしている。そして「歴史における自己の存在証明」を求めるアイデンティティの動きが、韓国人と日本人との境界線を益々はっきりする方へ向っても不思議ではない。

ここで使っている「日本・日本人イメージ」の調査は、中学生四七六人、高校生四五三人にも同時に実施しているが、勤勉・誠実というイメージは中学生がそれぞれ九・九%、七・五%である。それが、大学生になると一六・五%と多くなる。職人精神も中学生四・二%、高校生三・八%から大学生一四・四%へと多くなる。残忍というイメージは中学生二〇・六%と強いが、高校生一三・〇%、大学生四・一%へと大分変わる。しかし、狡猾というイメージは中学生二四・四%、高校生二二・一%、大学生一六・八%で、若干減少はするも、安定的である。日本人は狡猾である、というイメージは「言われ」を通じて、伝承される一つの歴史記憶であろう。

第四節 日本イメージの損傷要因

何が「日本・日本人イメージ」を悪くするのか。言い換えれば、どのようなことが韓国人の潜在意識として眠っている歴史の記憶を想起させるのであろうか。前述した韓国社会の内部的・構造的要因に加え、日本からの刺激が眠っていた歴史の記憶を呼び起こし、日本のイメージを損傷させた事例は枚挙にいと

表27 「日本・日本人イメージ」の損傷要因

| | | 全体(n=1,176) | |
|---|------|-------------|-------|
| 1 | 歴史歪曲 | 757 | 64.4% |
| 2 | 謝罪拒否 | 564 | 48.0% |
| 3 | 竹島主張 | 420 | 35.7% |
| 4 | 右翼妄言 | 359 | 30.5% |
| 5 | 経済摩擦 | 20 | 1.7% |
| 6 | 在日差別 | 75 | 6.4% |
| 7 | 軍備増強 | 76 | 6.5% |
| 8 | 偏向報道 | 40 | 3.4% |
| 9 | その他 | 27 | 2.3% |

まがない。

韓国人の日本に対するイメージを悪くする出来事を二つ選んでもらうと、「歴史歪曲」六四・四％、「謝罪拒否」四八・〇％、「竹島主張」二五・七％、「右翼妄言」三〇・五％であった。

第三章 韓国大学生の独島意識の構造

第一節 領土意識時期

大学生たちは、韓国人の日本に対するイメージを悪くするものとして、「歴史歪曲」、「謝罪拒否」とともに、「竹島主張」をあげているが、果たして韓国人に「独島」とはどのような意味を持つだろうか。まず、韓国人は独島をいつから自国の領土として認識するのか調べた。サンプルの大学生の場合、独島を韓国の領土として認識し始めた時期を尋ねると、「小学校に入学する前」五二・六％、「小学校のとき」四一・二％、「中学校のとき」四・一％、「高校のとき」一・六％、「高校卒業後」〇・六％であった。少なくとも韓国の学生たちは小学校に入学する前の段階で約四〇％の学生が既に「独島は韓国の領土である」と認識するようになり、小学生の時期にほとんどの学生が「独島は韓国の領土である」と認識するようになることが分かる。⁽¹⁷⁾

韓国人の血・地・知、そして日本

表28 独島領土意識時期

| | | 全体(n=1,183) | |
|---|--------|-------------|-------|
| 1 | 小学校入学前 | 622 | 52.6% |
| 2 | 小学校のとき | 487 | 41.2% |
| 3 | 中学校のとき | 48 | 4.1% |
| 4 | 高校のとき | 19 | 1.6% |
| 5 | 高校卒業後 | 7 | 0.6% |

第二節 独島に関する知識

表28でも分かるように、韓国の学生たちは幼い時期から独島が韓国の領土であると知ることになる。では、韓国の学生たちは「独島／竹島問題」に対して、何を、どのくらい知っているだろうか。韓国学生らの独島に関する知識程度を調べるために「独島／竹島問題」に関して言及されている項目を二〇個取り上げ、その内容を知っているか、あるいは聞いたことがあるかを尋ね、複数択一法 (Multiple Dichotomy Method) で集計した (表29)。

独島と関連することで韓国の大学生たちが最も耳にして、知っている「言葉」は、「排他的経済水域」七六・三%、「安龍福」七四・二%、「世宗実録地理志」六九・六%、「于山島」六〇・八%、「タケシマ」五七・一%、「三国史記」五〇・九%、「異斯夫」五〇・六%、「国際司法裁判所」四九・四%、「東国輿地勝覽」三五・九%、「無主地先占」三四・二%、「東島／西島」三三・二%である。「タケシマ」という日本の名称は、五七・一%が知っている。大学生は、

表29 独島知識

| | 全体(n=1,183) |
|-----------------|-------------|
| 1 排他的経済水域 | 903(76.3%) |
| 2 安龍福 | 878(74.2%) |
| 3 世宗実録地理志 | 823(69.6%) |
| 4 于山島 | 719(60.8%) |
| 5 タケシマ (竹島) | 675(57.1%) |
| 6 三国史記 | 602(50.9%) |
| 7 異斯夫 | 599(50.6%) |
| 8 国際司法裁判所 (ICJ) | 584(49.4%) |
| 9 東国輿地勝覽 | 425(35.9%) |
| 10 無主地先占 | 405(34.2%) |
| 11 東島・西島 | 393(33.2%) |
| 12 サンフランシスコ講和条約 | 225(19.0%) |
| 13 平和線 | 211(17.8%) |
| 14 肅宗実録 | 126(10.7%) |
| 15 島根県告示40号 | 112(9.5%) |
| 16 成宗実録 | 80(6.8%) |
| 17 洪順七 | 68(5.7%) |
| 18 三峯島 | 54(4.6%) |
| 19 SCAPIN 六七七 | 26(2.2%) |
| 20 隠州祝聴合記 | 11(.9%) |

全員法学科の学生で、国際法の知識を持っているだけに独島関連項目に対してかなりの知識を持っている (P<0.01)。また、大学生たちは、韓国の領有権主張の根拠になっている韓国の古文獻などに対する認知度が比較的高かった。しかし、「独島／竹島問題」の国際政治的起源である「サンフランシスコ講和条約」が一九・〇％、日本の領有権主張の根拠となっている「島根県告示第四〇号」が九・五％、『隠州視聴合紀』が〇・九％で、認知度はかなり低かった。

右の独島関連知識程度を個人が知っている項目の数に点数化 (二〇点満点) すると、全体調査対象者の平均は六・六九で、女子は平均五・九九、男子は平均六・九八で、男子の方の知識が高い (P<0.05)。学年間に統計的に有意な差はない。

第三節 独島知識の源泉

次は、韓国の大学生たちが、前節の独島に関する知識をどこから得るかを調べた。大学生たちが独島知識を得る源泉としては、国際法など

韓国人の血・地・知、そして日本

表31 独島知識の源泉

| | | 全体(n=1,167) | |
|----|-------------|-------------|-------|
| 1 | 教科書 | 657 | 56.3% |
| 2 | 新聞 | 341 | 29.2% |
| 3 | テレビ | 328 | 28.1% |
| 4 | 歌 (独島は我が領土) | 316 | 27.1% |
| 5 | 先生 | 260 | 22.3% |
| 6 | 単行本 | 99 | 8.5% |
| 7 | 雑誌 | 85 | 7.3% |
| 8 | インターネット | 77 | 6.6% |
| 9 | 父母・家族・親戚 | 35 | 3.0% |
| 10 | その他 | 32 | 2.7% |

表30 独島関連知識程度

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 6.69 | 5.99 | 6.98 | 6.36 | 6.65 | 6.85 | 6.98 |
| SD | 3.48 | 3.38 | 3.48 | 3.25 | 3.36 | 3.73 | 3.70 |
| $\chi^2(2P)$ | | -4.451***(.000) | | 1.206(.306) | | | |

***P<.001

の「教科書」が五六・三％で最も高く、「新聞」二九・二％、「テレビ」二八・一％の順である。「歌」（独島は我が領土）も二七・一％でかなり高く、先生は二一・三％である。

第四節 独島意識の構造
第一項 独島意識の根拠

表32に見られるように、サンプルの学生たちの実に九七・九％が独島を韓国の領土であると認識している。

なぜそう思う

表32 独島意識の根拠

| | 全体(n=1,183) | |
|--------------|-------------|-------|
| 韓国の領土である | 1,158 | 97.9% |
| 日本の領土である | 1 | 0.1% |
| どちらの領土か分からない | 24 | 2.0% |

表33 韓国の領土だと思う理由

| | 全体(n=1,131) | |
|---------------------|-------------|-------|
| 1 学校教育・教科書などから | 395 | 34.9% |
| 2 韓国人である以上当然 | 204 | 18.0% |
| 3 韓国が現在占有しているから | 187 | 16.5% |
| 4 マス・メディアが主張・証明している | 184 | 16.3% |
| 5 自分が直接調査 | 157 | 13.9% |
| 6 家族親戚親友から聞いた | 4 | 0.4% |

表34 日本政府が独島の領有権を主張する理由

| | 全体(n=1,157) | |
|-------------------------|-------------|-------|
| 1 漁業海底資源などで日本に重要であるから | 569 | 49.2% |
| 2 軍事的に日本に重要であるから | 285 | 24.6% |
| 3 領土を拡張しようとする野心があるから | 153 | 13.2% |
| 4 中国台湾ロシアとの領土問題と絡んでいるから | 71 | 6.1% |
| 5 日本国家内の世論のため | 54 | 4.7% |
| 6 分からない | 13 | 1.1% |
| 7 日本の領土だと思うから | 12 | 1.0% |

かを尋ねたところ、「学校教育・教科書で学んだ」が三四・九％で最も多い。次に「韓国人である以上当然のことだ」が一八％を占め、「現在韓

国が占有しているから」一六・五%、「新聞・テレビなどマス・メディアがそれを主張・証明しているから」一六・三%の順である。前述したように、同様の調査を中高生に行ったところ「独島／竹島問題」知識の平均点数は中学生が二・四一、高校性が三・〇八であった。大学生は六・六九であり、中高生に顕著である「韓国人である以上当然」、「韓国が現在占有しているから」の問答無用の領土意識は、大学生になると「学校教育・教科書」などに裏打ちされた領土意識に変化している。

「日本政府が独島の領有権を主張する理由は何だと思うか」と尋ねると、「漁業・海底資源などで日本に重要であるから」が最も多く、全体の五〇%近くを占めている。「軍事的に日本に重要であるから」は二四・六%、「領土を拡張しようとする野心があるから」は一三・二%である。

第二項 「独島／竹島問題」への関心度

サンプルの学生たちは「独島／竹島問題」にどれくらい関心を持っているだろうか。日韓関係の懸案の中から、「教科書問題」、「従軍慰安婦問題」、「独島／竹島問題」、「在日韓国人差別問題」、「経済・貿易関係」、「軍事・安全保障」、「文化・スポーツ交流」に対しての関心度を測ってみた。

全体的に韓国と日本との懸案に対する関心度については、「独島／竹島問題」は平均四・二〇、歴史認識問題に関わる「教科書問題」に対する関心度は平均四・〇四、「従軍慰安婦」は平均三・六三、「在日韓国人差別問題」は平均三・二六、「経済・貿易問題」は平均三・一六、「軍事・安全保障」は平均三・〇九、「文化・スポーツ交流」は平均

韓国人の血・地・知、そして日本

二・五九で、つまり「独島／竹島問題」と「教科書問題」とに對する関心が最も高く、日本との文化やスポーツ交流に對する関心度が最も低かった。

「独島／竹島問題」に對する関心度は、平均四・二九で高い方である。(P>.01)。性別による関心程度の差異はなかったが、学年間では一年生は平均四・四一、二年生は平均四・三三、三年生は四・一三、四年生は平均四・三〇で、三年生の関心が最も低く、一・二年生の関心が高くなる(P<.01)。

大学生たちは、性別によって日韓関係の懸案に對して関心の

表35 大学生の日韓関係懸案への関心度

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 教科書問題 (歴史認識) | 4.21 | 4.16 | 4.22 | 4.20 | 4.25 | 4.12 | 4.21 |
| | .83 | .80 | .84 | .90 | .78 | .86 | .85 |
| | t・F(P) | -1.136(.256) | | 1.628(.181) | | | |
| 従軍慰安婦 | 4.06 | 4.21 | 4.00 | 4.09 | 4.08 | 3.99 | 4.09 |
| | .94 | .84 | .98 | .94 | .92 | 1.01 | .94 |
| | t・F(P) | 3.416**(.001) | | .701(.552) | | | |
| 「独島/ 竹島問題」 | 4.29 | 4.24 | 4.32 | 4.41 | 4.33 | 4.13 | 4.30 |
| | .87 | .89 | .87 | .79 | .85 | .95 | .88 |
| | t・F(P) | -1.438(.151) | | 5.122**(.002) | | | |
| 在日韓国人 差別問題 | 3.41 | 3.39 | 3.41 | 3.40 | 3.33 | 3.46 | 3.56 |
| | 1.21 | 1.16 | 1.23 | 1.23 | 1.21 | 1.21 | 1.15 |
| | t・F(P) | -.235(.815) | | 1.751(.155) | | | |
| 経済・貿易 関係 | 3.40 | 3.29 | 3.45 | 3.42 | 3.31 | 3.43 | 3.64 |
| | 1.25 | 1.22 | 1.26 | 1.26 | 1.26 | 1.23 | 1.17 |
| | t・F(P) | -1.951(.051) | | 2.970*(.031) | | | |
| 軍事・安全 保障 | 3.34 | 3.04 | 3.47 | 3.24 | 3.26 | 3.46 | 3.54 |
| | 1.31 | 1.24 | 1.32 | 1.34 | 1.30 | 1.26 | 1.35 |
| | t・F(P) | -5.095***(.000) | | 3.001*(.030) | | | |
| 文化・スポーツ 交流 | 2.84 | 3.13 | 2.72 | 2.77 | 2.78 | 3.00 | 2.80 |
| | 1.60 | 1.59 | 1.59 | 1.65 | 1.58 | 1.62 | 1.57 |
| | t・F(P) | 4.034***(.000) | | 1.340(.260) | | | |

差があり、従軍慰安婦 ($P<0.1$) と文化・スポーツ交流 ($P<0.01$) に対しては、女子の関心が高く、軍事・安全保障 ($P<0.001$) に対しては男子の関心が高い傾向だった。

第三項 独島重要度

日韓関係において、韓国の学生たちの心の中に独島がどれくらい位置を占めているかを調べるために、日本との懸案事項において、方が一、日本に譲歩するのであれば最後まで諦めないのは何であるかを尋ねた。「最後まで独島だけは諦めない」と答えた比率は五一・三%であった。大学生の場合、女子は五〇・四%、男子は五一・七%で、男子が多少高い傾向だった ($P<0.1$)。学年間に統計的に有意な差はない。また、男子の場合は植民地支配に対する謝罪を重視し、女子の場合は従軍慰安婦に対する謝罪と賠償をより重視している。

また、日韓関係を改善するために日本が韓国に対して取るべき行動は何かを大学生に尋ねたところ(二問選択の複数応答)、「過去の侵略の過ちを認めて公式謝罪」に対して八〇・四%、「独島が韓国領土で

韓国人の血・地・知、そして日本

表36 独島重要度

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|----------------|-----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 植民地支配 謝罪 | 343 29.0% | 81 23.6% | 262 31.2% | 62 30.2% | 167 31.2% | 65 23.4% | 49 29.9% |
| 従軍慰安婦 謝罪/賠償 | 151 12.8% | 62 18.1% | 89 10.6% | 17 8.3% | 70 13.1% | 41 14.7% | 23 14.0% |
| 独島 | 607 51.3% | 173 50.4% | 434 51.7% | 116 56.6% | 263 49.1% | 148 53.2% | 80 48.8% |
| 分からない | 82 6.9% | 27 7.9% | 55 6.5% | 10 4.9% | 36 6.7% | 24 8.6% | 12 7.3% |
| $\chi^2(P)$ | | 16.186**(.001) | | 12.872(.169) | | | |

* $P<.05$ ** $P<.01$

あることを認定」に対して、三六・〇％であった (P<.001)。

日本との懸案事項において、万が一、日本に何かを譲歩するとしても「最後まで独島だけは諦めない」と答えた比率は高かったが、日韓関係を改善するために日本が韓国に対して取るべき行動では「過去の侵略の過ちを認めて公式謝罪」が、「独島が韓国領土であることを認定」より高いのは、現に独島を韓国が占有している現状から考えて自然な認識であると考えられる。

第四項 独島守護意志

独島守護意志は、一二の項目に次のように答えた場合に各々一点ずつを与え、最小〇点、最大一二点として構成した変数である。

表37 日韓関係改善の条件

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------------------|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 過去の侵略の過ちを認めて公式謝罪 | 951 80.4% | 273 79.6% | 678 80.7% | 166 81.0% | 440 82.1% | 215 77.3% | 130 79.3% |
| 従軍慰安婦軍人軍属などに謝罪賠償 | 488 41.3% | 163 47.5% | 325 36.7% | 78 38.0% | 220 41.0% | 133 47.8% | 57 34.8% |
| 独島が韓国領土であることを認定 | 426 36.0% | 134 39.1% | 292 34.8% | 83 40.5% | 196 36.6% | 90 32.4% | 57 34.8% |
| 在日韓国人に対する差別を廃止 | 119 10.1% | 41 12.0% | 78 9.3% | 19 9.3% | 49 9.1% | 34 12.2% | 17 10.4% |
| 軍備増強を抑止 | 63 5.3% | 11 3.2% | 52 6.2% | 10 4.9% | 23 4.3% | 16 5.8% | 14 8.5% |
| 技術協力・技術援助など経済協力の拡大 | 143 12.1% | 33 9.6% | 110 13.1% | 21 10.2% | 61 11.4% | 34 12.2% | 27 16.5% |
| 貿易黒字の縮小 | 13 1.1% | 2 .6% | 11 1.3% | 4 2.0% | 3 .6% | 1 .4% | 5 3.0% |
| 人的交流の拡大 | 147 12.4% | 26 7.6% | 121 14.4% | 28 13.7% | 70 13.1% | 31 11.2% | 18 11.0% |
| その他 | 16 1.4% | 3 .9% | 13 1.5% | 1 .5% | 10 1.9% | 2 .7% | 3 1.8% |
| $\chi^2(P)$ | | 5.396(.715) | | 13.450(.958) | | | |

- 独島は韓国¹の領土である。
- 「独島／竹島問題」に関心がある。
- 韓国人の日本に対するイメージを悪くするのは、日本が独島を自分たちの領土として主張するからである。
- 韓国と日本がより親密になるために日本は独島が韓国の領土であることを認めるべきである。
- 日本との懸案問題において、もし日本に譲歩するのであれば、「植民地支配への謝罪」、「従軍慰安婦に対する謝罪と賠償」とは譲歩しても、最後まで独島は諦めない。
- 日本が独島領有権を主張するのには根拠がない。
- 独島を紛争地域化するのが日本の戦略であっても、構うことなく韓国は独島の領有権を主張し続けるべきだ。
- 日韓友好のために「独島／竹島問題」に関して、日本を刺激するような主張はしない方がよいという意見には反対である。
- 「独島／竹島問題」を解決するために国際司法裁判所に付託することに反対である。
- 独島を日韓両国が共同管理することに反対である。

韓国人の血・地・知、そして日本

表38 独島守護意志

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|--------|-----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| M | 7.73 | 7.48 | 7.83 | 7.88 | 7.77 | 7.50 | 7.77 |
| SD | 1.83 | 1.75 | 1.83 | 1.86 | 1.79 | 1.82 | 1.83 |
| t・F(P) | | -3.045**(.002) | | 2.009(.111) | | | |

P<.01 *P<.001

● 国際司法裁判所に行っても韓国が不利であるとは思わない。

● 独島を守るためには日本との戦争をも辞さない。

分析の結果、独島の守護意志は七・七三で、高い ($P < 0.01$)。女子は平均七・四八、男子は七・八三で、男子の独島守護意志が若干高い ($P < 0.1$)。学年間に統計的に有意な差はない。

第五項 「独島／竹島問題」に関するマス・メディアの報道姿勢評価

韓国のジャーナリズムは、「独島／竹島問題」を論じる際、読者の感情・感性に訴えるプロパガンダ的文章が、記事全体の半分を越えるくらいであるが、韓国の大学生たちはそのようなマス・メディアの報道姿勢をどう評価しているだろうか。

「韓国マス・メディアの『独島／竹島問題』報道が反日感情を煽っている」についての答えは平均三・七一で、韓国の大学生は、韓国マス・メディアの「独島／竹島問題」報道が、反日感情を煽っていることを十分認識している。性別、学年間ともに統計的に有意な差はない。

またマス・メディアの「独島／竹島問題」関連報道が過熱的であるかについては平均三・二〇で、若干過熱しているという認識であった。これも性別と学年による差はなかった。

次に「日韓両国の意見を公平に報道している」に対しては平均三・五〇で、韓国のマス・メディアは両側の意見を公平に取り扱っていないと認識している。これについては、女子は平均三・六一、男子は平均三・四五で、女子の方

がより不公平に報道しているという意見であり ($P < 0.1$)、一年生は平均三・五一、二年生は平均三・四七、三年生は平均三・六二、四年生は平均三・三七で、三年生が最も不公平な報道をしているという意見であった ($P < 0.05$)。三つの変数を合わせ、「マス・メディアの独島関連報道姿勢の偏頗性」とすると、平均三・四七になり、韓国の大学生たちは、韓国のマス・メディアの独島関連報道が多少偏頗であると認識している。性別による統計的に有意な差はなく、一年生は平均三・四八、二年生は平均三・四二、三年生は平均三・五七、四年生は平均三・四二で、三年生が高いが、Tukeyの多重比較では差がなかった ($P < 0.05$)。

第六項 「独島／竹島問題」に関する意見

韓国の大学生たちは、韓国のマス・メディアによる「独島／竹島問題」の報道を、多少不公平であると認識していることは前項で述べた。では彼らは自分自身の意見を持っているであろうか。「独島／竹島問題」に対する様々な意見に関してその反応を調べた。これらの質問は三点尺度で、平均点を取るため、各質問に「そうでない」と答えた場合一点、「分らない」は二点、「そうである」は三点の点数を与えている。

『独島／竹島問題』が生じたのにはアメリカにも責任がある」に対しては、四六・二%が「そうである」と答えた。また、「日本が独島の領有権を主張するのにはそれなりの根拠があるに対しては二三・〇%が「そうである」と答えた。

「日韓関係を友好的に維持するために、韓国は『独島／竹島問題』に関して日本を刺激するような主張はしない方

が良い」には七・九%だけが「そうである」と答えた。

「独島を紛争地域化するのが日本の戦略であるため、日本が独島の領有権を主張しても騒がない方が良い」には二七・八%が「そうである」と答えた。学生たちは、日韓友好のために独島主張を控えることに反対であるものの、紛争地域化することは望ましくない、と思う比率が高い。

『「独島／竹島問題」を日韓両国が解決することは難しいために国際司法裁判所に行って解決せざるを得ない」に対しては一五・四%が、「そうである」と答え、「国際司法裁判所に行けば韓国が不利だ」に対しては四五・九%が「そうである」と答えた。

一方、『「独島／竹島問題」を解決するために独島を日韓両国が共同管理することが良い」に対しては「そうである」と答えた比率は一・六%に過ぎない。大学生は、国際司法裁判所への付託、独島の共同管理などが韓国に不利に作用すると思う比率がかなり高い。

「将来韓国と日本は独島をめぐるって戦争をするかも知れ

表39 独島に対するマス・メディアの報道姿勢

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|----------------|----------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 反日感情 煽動 | 3.71 (.93) | 3.75 (.86) | 3.69 (.96) | 3.74 (.92) | 3.64 (.94) | 3.81 (.90) | 3.71 (.96) |
| | t・F(P) | 1.062(.289) | | 2.166(.090) | | | |
| 報道過熱 | 3.20 (1.06) | 3.13 (1.05) | 3.23 (1.07) | 3.20 (1.09) | 3.16 (1.03) | 3.28 (1.06) | 3.17 (1.11) |
| | t・F(P) | -1.435(.152) | | .921(.430) | | | |
| 両側意見 不公平 | 3.50 (.89) | 3.61 (.77) | 3.45 (.94) | 3.51 (.90) ab | 3.47 (.89) ab | 3.62 (.84) b | 3.37 (.97) a |
| | t・F(P) | 2.920**(.004) | | 2.992*(.030) | | | |
| 報道姿勢 偏頗性 | 3.47 (.74) | 3.50 (.66) | 2.46 (.77) | 3.48 (.71) | 3.42 (.72) | 3.57 (.74) | 3.42 (.81) |
| | t・F(P) | .881(.378) | | 2.818*(.038) | | | |

*P<.05 **P<.01

表40 大学生の「独島/竹島問題」に対する意見

韓国人の血・地・知、そして日本

| | 全体 (n=1,183) | 性別 | | 学年 | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|---------------|-------------------|------------------|------------------|-------------------|
| | | 女子 (n=343) | 男子 (n=840) | 1年生 (n=205) | 2年生 (n=536) | 3年生 (n=278) | 4年生 (n=164) |
| 米国にも責任あり | 2.19 .83 | 2.20 .78 | 2.19 .85 | 2.26 .82 | 2.18 .83 | 2.13 .84 | 2.26 .84 |
| | t・F(P) | .310(.765) | | 1.392(.244) | | | |
| 日本の領有権主張根拠あり | 1.55 .84 | 1.53 .82 | 1.56 .85 | 1.50 .79 | 1.51 .81 | 1.68 .90 | 1.56 .86 |
| | t・F(P) | -.550(.583) | | 2.918*(.033) | | | |
| 日本を刺激しない方が 良い | 1.18 .55 | 1.15 .50 | 1.19 .58 | 1.21 .60 ab | 1.12 .46 a | 1.27 .65 b | 1.20 .57 ab |
| | t・F(P) | -1.111(.267) | | 4.725**(.003) | | | |
| 騒がない方が 良い | 1.62 .89 | 1.59 .86 | 1.64 .90 | 1.58 .85 | 1.60 .89 | 1.68 .90 | 1.66 .91 |
| | t・F(P) | -.957(.329) | | .715(.543) | | | |
| 国際司法裁判所に付託 | 1.41 .74 | 1.55 .80 | 1.35 .70 | 1.36 .69 | 1.43 .76 | 1.42 .75 | 1.35 .72 |
| | t・F(P) | 4.006***(.000) | | .816(.485) | | | |
| 国際司法裁判所では韓国不利 | 2.06 .93 | 2.11 .90 | 2.04 .94 | 2.09 .90 | 2.04 .93 | 2.08 .94 | 2.02 .93 |
| | t・F(P) | 1.219(.223) | | .227(.877) | | | |
| 独島日韓共同管理賛成 | 1.07 .31 | 1.07 .30 | 1.06 .31 | 1.11 .38 | 1.06 .29 | 1.05 .27 | 1.06 .31 |
| | t・F(P) | .499(.618) | | 1.531(.205) | | | |
| 独島関連戦争勃発可能 | 1.63 .86 | 1.40 .69 | 1.73 .90 | 1.84 .88 b | 1.59 .84 a | 1.56 .83 a | 1.65 .88 a |
| | t・F(P) | -6.754***(.000) | | 5.313**(.001) | | | |
| 独島守護戦争賛成 | 1.68 .90 | 1.41 .74 | 1.79 .94 | 1.78 .91 | 1.65 .90 | 1.64 .88 | 1.71 .93 |
| | t・F(P) | -7.361***(.000) | | 1.338(.261) | | | |

「独島を守るために韓国は日本と戦争をしても良い」に対して賛成と答えた比率は、二九・八％である。日韓間で独島をめぐる戦争をする可能性

ない」に対して戦争をするかも知れないと思う大学生は二五・〇％である。また、

を低く見ているが、一方、戦争をも辞さないという意見も多い。

以上のことから、韓国の学生たちは、独島の保全に対して、かなり強硬な意見を持っていることと、独島、竹島の領有権に関しては、ある程度現実的な意見を持っていることが伺える。

終わりに

「韓国人は独島を自分の領土と知っている」。この短い命題にはアイデンティティ、領土意識、そして領有権争いの相手国に関するイメージなど、規範、価値観、文化、社会、個人に関わる認識論上の問題が凝縮されている。

文化とアイデンティティの問題は、外交や国際関係と密接な関わりを持っている。⁽⁴⁸⁾ 例えば、入江昭は、「いずれの国に属する人たちも共通の歴史を持ち、同じ価値観を共有している。少なくともそうだと信じている」という意味で、国家とはもともと文化的な組織である。そのような国家同士が関わりあうのが外交関係であるから、そこには当然文化的な面が存在している。文化的なからみあい⁽⁴⁹⁾が外交の根幹だともいえる」と主張している。

また、コンストラクティヴィストは、国際関係の現実が社会的に構成される際に、規範、価値、アイデンティティ、イデオロギー、文化などが重要な変数である⁽⁵⁰⁾と考える。本稿もこのような立場に立ち、韓国人のアイデンティティ、独島意識、日本イメージの形成過程と認識構造を分析するとともに、韓国人のアイデンティティが、韓国人の独島意識と日本イメージにどのような影響を与えているのか、独島意識と日本イメージはどのような関係にあるのか、また、それは対日態度にどのような影響を与えているのか、などをアンケート調査の分析に基づき考察してきた。その際、

マス・メディア、学校制度、家族制度などがそれぞれの問題にどのような影響を及ぼしているのかを検討した。これはアルチュセールが「国家のイデオロギー装置」と呼ぶところのものである。

総じて、韓国の大学生たちは「韓国人としての誇り」が高い。しかしながら、国家より個人を重視し、現実主義的国際政治観を持っている。「政治的疎外感」は普通程度で、韓国政治と日韓関係に対する満足度は双方ともに低く、かなり不満足であった。

このような価値観、世界観、そして現実認識が「独島／竹島問題」をめぐる態度にも反映されている。すなわち、長い歴史の間に、中国と日本によって何度も侵略され、それに耐えてきたという歴史の記憶が、「弱肉強食」の国際政治観をもたらし、「国」に頼るよりは「個人」の自助に頼るしかないとの意識をも産む。反面、それは「民族の自尊心」を高める教育とも共鳴している。このような意識が「独島」に植民地のステイグマを見、反動としてのアタッシュマンを求めているといえよう。

そのような心理構造の持ち主である韓国の大学生たちは、かなり厳しい日本イメージを持っていた。日本イメージは「日本国家・日本社会・日本人個人」の三層構造になっており、全体的な日本イメージは否定的である。当然、「日本国家」との社会的距離は遠い。しかし、「日本人個人」との社会的距離は近い。このように、韓国の大学生たちの日本イメージはアンビバレンスなものであった。韓国の大学生たちの「日本人個人に対するイメージ」が称賛と蔑視のアンビバレンスであったように、「国家としての日本イメージ」も警戒すべき国でありながらも、見習うべき国であるという二律背反的なものであった。日本の「国内特性イメージ」としては「開放的」、「民主的」、「集団主義的」であり、「対外態度イメージ」としては、「非信賴的」、「好戦的」であった。

彼らが一般的に持っている日本人のイメージは「表と裏が違う」、「経済的能力が優れている」、「歴史認識が足りない」、「狡猾である」の順である。このような日本・日本人に対するイメージは、主にマス・メディアから得たものであり、学校教育はそれを公認する役割を果たしていることも明らかにした。アイデンティティの確立と、社会化過程において重要な家族の影響は、数値としては微々たるものでしかない。

しかし、「日本人は狡猾である」、というステレオタイプのイメージが、時空を越えた歴史の記憶として、なかなか変わることはないイメージである事実も『朝鮮王朝実録』に現れる日本イメージとの比較を通じて確認された。

また、韓国の大学生たちの日本イメージを損ねている要因は「歴史認識問題」と「竹島領有権主張」である。韓国の大学生たちの「独島／竹島問題」に対する関心度と、独島に対する愛情とは並大抵のものではないことも確認された。現に殆どの韓国人は「独島は我が領土である」と信じている。そのような状況のなかで、日本政府の竹島領有権主張は、マス・メディアの報道によって増幅され、国民の植民地時代の記憶を想起させ、ナショナリズムを刺激する。その結果、韓国人のアイデンティティは益々強化される。また、日本政府の竹島領有権主張は、韓国人に好戦的日本国家イメージと狡猾な日本人イメージを与える。そして、それは勤勉・誠実・親切な日本人イメージとの認知不協和を起こしているという構造になっている。韓国のマス・メディア、教育、家族制度などが、歴史の記憶を永続的なものとする社会構造的阻害要因として存在しているうえに、約一〇年周期で起きる「独島／竹島問題」は日本イメージを大きく損ねている。

韓国人にとって、民族としてのアイデンティティ、独島というトポス、そして日本⇨他者に対するイメージ——つまり、「血」・「地」・「知」——、これら各々が韓国人の自己形成における重要な原因であり、かつその結果でもある。

- 1 R・ドーンソン／K・プルウィット／K・ドーンソン著、加藤秀治郎他訳『政治的社会化…市民形成と政治教育』芦書房、一九九〇年、一七頁。
- 2 コンストラクティヴィズムとは、「人々が当たり前とする日常的行為や社会的制度などが、社会的な実践のなかで『構築』されたものであると考える相対主義的なアプローチ」のことである。社会的構築主義 (Social Constructivism)、社会的構成主義 (Social Constructionism)、あるいは簡単に構築主義、構成主義、コンストラクティヴィズムなどと多様に呼ばれているが、ここではコンストラクティヴィズムとする。
- 3 関根政美「文化と国際政治」『国際政治』第二一九号、二〇〇二年二月、七頁。
- 4 九校は、ソウル大学、梨花女子大学、延世大学、高麗大学、成均館大学、漢陽大学、韓国外国語大学、慶熙大学、建国大学である。
- 5 信頼度は内的一貫性法に基づいて検証した。信頼度は、日本接触度 〇・五三三、一、価値変数 〇・五三〇、二、独島意識 〇・六七三九、日本イメージ 〇・五九四九、日韓関係 〇・五七三一で全体的な信頼度は Cronbach's Alpha (α) = 〇・七三二である。
- 6 調査対象校のなかで、新入生選抜を文Ⅰ、文Ⅱのように系列別に募集する二校を除く七校の男女比は、男子五八五三人、女子一六八八人で、女子の比率は二八・八％である。
- 7 Gordon Willard Allport, *The Nature of Prejudice* (Cambridge, Mass.: Addison-Wesley, 1954); オルポート著、原谷達夫・野村昭訳『偏見の心理』培風館、一九六八年。
- 8 辻村明・金圭煥・生田正輝編『日本と韓国の文化摩擦―日韓コミュニケーション・ギャップの研究』出光書店、一九八二年、三九―四一頁。

韓国人の血・地・知、そして日本

- 9 調査対象は、一五歳から三五歳までの香港市民、調査は電話で行われ、有効回答者は六八七人である。
- 10 「保衛釣魚台運動」の略。釣魚台は尖閣諸島の魚釣島。
- 11 小鉢進「韓国社会における日本大衆文化の位置と対日意識の変化」『東亜』二〇〇二年六月号、四二頁、注(二六)；石井健一「親日と反日―尖閣諸島問題をめぐる日・中・台報道」、石井健一編『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、二〇〇一年、一七二―一七五頁；石井健一、渡辺聡、周兆良「台湾で大人気、日本のテレビ番組」『放送文化』一九九七年二月号、一〇六一―一七頁。
- 12 吳澤燮「韓国人の対日本観」『日韓二一世紀委員会編』『日韓二一世紀委員会参考論文集―世論調査・マスメディア調査・文献調査』一九九一年、一一〇頁。
- 13 調査対象は、ソウル首都圏と釜山圏にある大学に通う韓国の大学生、調査方法は集合調査、有効回答者は七四〇人である。そのなかで、日本の映画やテレビドラマを見たことがある人は六二六人(八四・六%)である。
- 14 小鉢進、前掲論文、三八頁。
- 15 総務省統計局『日本の統計』一九六八―二〇〇三、各年度版による。
- 16 総務省統計局『日本の統計』一九六八―二〇〇三各年度版；法務省『出入国管理統計年報』各年度版による。
- 17 日本人の渡航先上位五カ国(単位：人)

| | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 米国 | 4,025,898 | 4,752,770 | 5,182,940 | 5,376,637 | 4,951,065 | 4,841,292 | 5,073,673 | 4,124,450 |
| 韓国 | 1,552,094 | 1,565,947 | 1,438,086 | 1,602,469 | 1,898,940 | 2,105,530 | 2,366,544 | 2,377,321 |
| 中国 | 774,556 | 865,177 | 1,018,621 | 1,040,465 | 1,001,590 | 1,226,847 | 1,468,492 | 2,384,500 |
| タイ | 484,268 | 603,291 | 693,657 | 728,733 | 777,552 | 822,831 | 865,938 | 1,177,599 |
| 台湾 | 743,234 | 823,435 | 834,660 | 823,203 | 766,000 | 762,941 | 844,977 | 971,190 |

出所：国土交通省『観光白書』1995―2003年、各年度版の出入国管理統計

18 文部科学省高等教育局留学生課『我が国の留学制度の概要』各年度版による。

- 19 「政治的疎外」は政治的信頼・政治的有効性感覚で構成されている。シーマン (M.Seaman、一九五九) は疎外を、無力性 (Powerlessness)・無意味性 (Meaninglessness)・無規範性 (Normlessness)・孤立 (Isolation)・自己疎遠 (Self-Estrangement) の五つの意味を含む多次的な概念であると説明した (Melvin Seeman, "On the Meaning of Alienation," *American Sociological Review*, Vol. 24, No. 6, 1959, pp. 783-791)。それを受け継いだフィンifter (A.W. Finifter) は政治的疎外を「政治的無力性 (political powerlessness)」・「無規範性 (political normlessness)」の二次元になっている概念であると捉えよう (A.W. Finifter, "Dimensions of Political Alienation," *American Political Science Review*, Vol. 64, No. 2, 1970, pp. 389-410)。政治的有効性感覚を初めて概念化したキャンベルら (A. Campbell et al., 1954) は「政治的有効性感覚を『個人の政治的行動が政治過程に影響を及ぼすことができると思ふこと』」(Angus Campbell, Gerald Gurin, and Warren E. Miller, *The Voter Decides* (Evanston, Ill.: Row, Peterson, 1954), p. 187) と定義した。さらに R.E. Lane (一九五九) は「政治的有効性感覚や『政治的自信 (Political Self-Confidence)』と称される政治意識は、『自己に関するイメージに加えて、政府が人々の働きかけに応答するかどうかイメージと密接に関連している』と主張しよう (Robert E. Lane, *Political Life: Why and How People Get Involved in Politics* (Glencoe, Ill.: Free Press, 1959), p. 149)。また G.I. Balch は自己の能力に関する「内的政治的有効性感覚 (Internal political efficacy)」と「政府の応答性に関する『外的政治的有効性感覚 (External political efficacy)』」に区別した (George I. Balch, "Multiple Indicators in Survey Research: The Concept 'Sense of Political Efficacy,'" *Political Methodology*, Vol. 1, 1974, pp. 1-43)。
- 20 鄭大均『日本(イルボン)のイメージ―韓国人の日本観』中公新書、一九九八年、一九頁。
- 21 磯崎典世「韓国ジャーナリズムの日本像」山内真之・古田元夫編『日本イメージの交錯―アジア太平洋のトポス』東京大学出版会、一九九七年、二三頁。

- 22 辻村明、古畑和孝、鮑戸弘編『世界は日本をどうみているかー対ロイメージの研究』日本評論社、一九八七年、一九頁。
- 23 日韓二世紀委員会編『日韓二世紀委員会参考論文集―世論調査・マスメディア調査・文献調査』一九九一年、一二六頁。
- 24 Emory S. Bogardus, "Measuring social distance," *Journal of Applied Sociology*, Vol. 9, 1925, pp. 299-308.
- 25 誤った関連づけ (illusory correlation) は、二変数間の相関係数が〇か、はぼ〇のとき、実際以上に大きく相関を判断する²⁶ことを指す。「錯誤相関」「錯誤関連づけ」「幻相関」とも訳られる。トヴェルスキーとカーネマン (Amos Tversky & Daniel Kahneman) が提唱した「利用可能性ヒューリスティックス (availability heuristic)」による説明では、関連性の高い変数の組合せは記憶されやすく、また、記憶されやすい事柄は普通生起頻度も高いので、生起頻度が過大視されると考える。ステレオタイプも特定タイプの成員と集団全体との相関の過大視なので、誤った関連づけの一種である。(Amos Tversky & Daniel Kahneman, "Availability: A heuristic for judging frequency and probability," *Cognitive Psychology*, Vol. 5, 1973, pp. 207-232)
- 26 D. L. Hamilton & R. Gifford, "Illusory Correlation in Interpersonal Perception: A cognitive basis of stereotypic judgments," *Journal of Experimental Social Psychology*, Vol. 48, 1976, pp. 392-407.
- 27 Patricia G. Devine, "Automatic and Controlled Processes in Prejudice: The role of stereotypes and personal beliefs," Anthony R. Pratkanis, Steven J. Breckler, Anthony G. Greenwald (eds.), *Attitude structure and function* (Hillsdale, NJ: L. Erlbaum Associates, 1989), pp. 181-211.
- 28 Leon Festinger, *A Theory of Cognitive Dissonance* (Stanford, CA: Stanford University Press, 1957); Leon Festinger & J. M. Carlsmith, "Cognitive Consequences of Forced Compliance," *Journal of Abnormal and Social Psychology*, Vol. 58, 1959, pp. 203-210.
- 29 Greenwald H. J., "Dissonance and relative vs. absolute attractiveness of decision alternatives," *Journal of Personality*

- 30 鄭在貞「韓国教科書の日本像」山内昌之・古田元夫『日本イメージの交錯―アジア太平洋のトポス』東京大学出版会、一九七一年、六頁。
- 31 呉澤燮、前掲論文、一一〇頁。
- 32 Erik H. Erikson, *Identity and the life cycle*. New York: International Universities Press, 1959.
- 33 馬場伸也『アイデンティティの国際政治学』東京大学出版会、一九八〇年、六頁。
- 34 同上、八頁。
- 35 同上、七頁。
- 36 同上。
- 37 大学教育社編『現代政治学事典』おうふう、一九九四年、三頁。
- 38 本稿では韓国ソウルシステムの国訳CD-ROM（一九九七年版）を利用した。
- 39 百濟・高句麗を滅ぼし、唐をも朝鮮半島から追い払った人物である新羅第三〇代王の文武王（在位六六一―六八〇）が、海の龍になって国を守るとして東海（日本海）に水葬せよと遺言したと伝える。
- 40 高麗を滅ぼして朝鮮王朝を立てた李成桂は、高麗末期、倭寇の討伐に功を立て勢力を伸ばした。
- 41 「羈縻」は、中国の伝統的対夷統制、懐柔策のことである。外表を中国に朝貢させ、朝貢してきた外表に官職を与え、官職に見合った接待をおこない、厚賜する政策を指す。伝統的華夷秩序観念において「事大」は垂直的関係、「交隣」は対等な水平的関係を意味する。しかし、閔德基は、朝鮮朝前期における交隣の用例を検討し、「交隣」を対等関係と上下関係をを含む概念として把握し、対等関係としての「敵礼的交隣」と上下関係としての「羈縻圈交隣」と区別する。閔德基は、朝鮮王朝が、対馬・大内氏・女真族などに対して、「交隣」の名の下で実際は「羈縻政策」を取ったとする（閔德基『前近代東アジアのなかの

韓日關係』早稲田大学出版部、一九九四年、三〇―三二頁。

42 M・B・ジャンセン著、加藤幹雄訳『日本と東アジアの隣人―過去から未来へ』岩波書店、一九九九年、四一頁。

43 申維翰著、姜在彦訳注『海游録―朝鮮通信使の日本紀行(東洋文庫二五二)』平凡社、一九七四年、三二六―三二七頁。

44 小西行長ら第一軍が釜山浦に上陸したのは、一五九二年四月二日、小西行長・加藤清正らが漢城を攻略したのは五月三日、小西行長・黒田長政らが平壤を攻略したのは六月一五日である。(加藤友康他編『日本史総合年表』吉川弘文館、二〇〇一年、三三八頁)

45 河宇鳳『朝鮮後期実学者の日本観研究』ソウル・一志社、一九八九年、参照。

46 鮮于輝・高柄翊・金達寿・森浩一・司馬遼太郎『日韓理解への道』中公文庫、一九九四年、一七一―一九頁。

47 二〇〇一年現在の時点での高校三年生は一九九六年では中学一年生、高校二年生は小学六年生に当たる。最年少の中学一年生は小学二年生に当たる。

48 文化の定義は数え切れないほどあるが、一般的に「ある社会の人々が自然と受け止める行動の規範、物の見方・考え方で、その社会特有の含意をもっている世界」と定義できよう。しかしながら、文化が個人の認識の形成と行動のモチープにどのような機能するかの説明はおそらく、文化の定義以上に多様であろう。

49 『外交フォーラム』一四〇号、二〇〇〇年四月、一二頁。

50 Ronald L. Jepperson, Alexander Wendt, and Peter J. Katzenstein, "Norms, Identity, and Culture in National Security," in Peter J. Katzenstein (ed.), *The Culture of National Security: Norms and Identity in World Politics* (New York: Columbia University Press, 1996), pp. 33-75.

韓日関係及び独島問題に関する意識調査

韓
国
人
の
血
・
地
・
知
、
そ
し
て
日
本

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 忙しい中、貴重な時間を割愛いただきまして大変ありがとうございます。
 この質問紙は「韓日関係における日本のイメージ」と「独島問題」に関する
 皆様の意識を調査・分析することを目的としております。平素あなたが思って
 いたことを率直に答えてくだされば貴重な資料になると思います。
 この質問紙は無記名で統計処理され、学术论文の執筆以外には使用しないこ
 とと内容に関しては秘密を守ることを約束いたします。
 協力に深く感謝いたします。

★該当する番号に○をつけるか、括弧に番号を書いてください。

まずは、あなたが「日本人」と「日本」という国家にどのようなイメージを持っていらっしゃるかに関しての質問です。

Q1-1 次のなかで日本人を最もよく表している言葉はどれでしょうか。

二つ選んでください。() ()

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 勤勉・誠実である | 8 冷たい |
| 2 親切で礼儀正しい | 9 ホンネとタテマエが違う |
| 3 協同・団結精神が強い | 10 ずるい |
| 4 伝統と伝統文化を重んじる | 11 残忍だ |
| 5 筋金入りの職人精神を持っている | 12 歴史認識が足りない |
| 6 商売・経済的活動に優れている | 13 その他 () |
| 7 模倣するのが上手 | 14 わからない |

Q1-2 あなたは 現在の日本という国に対してどのような考えをもっていますか。次の対立する概念の中、あなたの考えの最も近いところに V 表示をしてください。

例) かなり保守的である。やや非協調的である。

| | | かなりそ うである | ややそ うである | どちらで もない | ややそ うである | かなりそ うである | |
|---|-----|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|------|
| 1 | 保守的 | V | | | | | 進歩的 |
| 2 | 協調的 | | | | V | | 非協調的 |

| | | かなりそ うである | ややそ うである | どちら でもない | ややそ うである | かなりそ うである | |
|---|-------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------|
| 1 | 開放的 | | | | | | 閉鎖的 |
| 2 | 民主的 | | | | | | 非民主的 |
| 3 | 信頼できる | | | | | | 信頼できない |
| 4 | 平和的 | | | | | | 好戦的 |
| 5 | 個人主義的 | | | | | | 集団主義的 |

Q 1-3 上の二つの質問 (Q1-1、Q1-2) でお答えになった日本人と日本国のイメージは、次のうちどれから一番影響を受けたと思いますか。二つ選んでください。
()、()

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 日本訪問(滞在)経験 | 6 本・雑誌 |
| 2 日本人友達との付き合い | 7 新聞報道 |
| 3 韓国の家族、親族との話し合い | 8 テレビ放送 |
| 4 先輩・友達との話し合い | 9 インターネット |
| 5 韓国での学校教育や教科書 | 10 わからない |

Q 2 あなたは「日本」という国についてどう思いますか。非常に嫌っているなら0点、普通なら5点、非常に好きであれば10点とすれば、何点を与えますか。点数のところに○をつけてください。

| | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|----|---|---|-------|---|----|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 非常に嫌い | | | | | 普通 | | | 非常に好き | | |

Q 3 日本人は「韓国」という国についてどう考えていると思いますか。非常に嫌っていると思うなら0点、普通であろうと思うなら5点、非常に好きであると思うなら10点とすれば、何点を与えますか。点数のところに○をつけてください。

| | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|----|---|---|-------|---|----|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 非常に嫌い | | | | | 普通 | | | 非常に好き | | |

Q 4 次のうち、韓国人の日本に対するイメージを悪くする出来事は何であると思いますか。一番影響が大きいと思うところに①, その次に影響が大きいと思うところに②をつけてください。

- | | |
|---------------------------|-----|
| 1 教科書記述などで歴史を歪曲する | () |
| 2 従軍慰安婦・軍人・軍属への謝罪・賠償を拒否する | () |

- 3 独島（竹島）は日本の領土であると主張する ()
- 4 在日韓国人を差別する ()
- 5 軍備を増強、軍事大国化を図る ()
- 6 日本政治家・右翼人事などがいわゆる「妄言」を言う ()
- 7 日本のマス・メディアが偏向的な報道をする ()
- 8 日本政府が貿易赤字など経済摩擦を是正しようとしなない ()
- 9 その他 () ()

Q 5 あなたは次のことに賛成ですか。それとも反対ですか。番号に○をつけてください。

| | | 非常に賛成 | どちらかと言えば賛成 | どちらとも言えない | どちらかと言えば反対 | 絶対に反対 |
|---|---------------------|-------|------------|-----------|------------|-------|
| 1 | あなたやあなたの家族が日本人と結婚する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | あなたの子供を日本人の先生が教える | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | あなたが日本の上司の下で働く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | あなたが日本で永住する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q 6 次の国から選んで番号を書いてください。

| | | アメリカ | 日本 | 中国 | ロシア | 北朝鮮 |
|---|----------------|------|----|----|-----|-----|
| 1 | 今後韓国が最も親しくすべき国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 今後韓国が最も警戒すべき国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 最も見習うべき国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q 7 あなたは「日本」という言葉を聞いたとき、最初に何が思い浮かべますか。自由に答えて下さい。

Q 8 あなたは韓国と日本との間の出来事や物事にいつもどの程度関心を持っていますか。次の項目に対する関心の程度をお知らせください。

(それぞれ一つずつ○をつけてください)

| | | 非常に 関心がある | かなり 関心がある | あまり 関心がない | 全く 関心 がない | 分から ない |
|---|---------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|-----------|
| 1 | 教科書問題など歴史認識問題 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 従軍慰安婦問題 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 独島／竹島問題 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 在日韓国人差別問題 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 | 経済・貿易関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 軍事・安全保障 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 | 文化・スポーツ交流 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q 9 韓国と日本がより親しくなろうとするならば、日本が韓国に対してどうするべきだと思いますか。一番重要だと思うところに①を、その次に重要だと思うところに②書いてください。

- 1 過去の侵略の過ちを認め公式謝罪 ()
- 2 従軍慰安婦・軍人・軍属などに謝罪・賠償 ()
- 3 独島が韓国の領土であることを認定 ()
- 4 在日韓国人への差別を廃止 ()
- 5 軍備増強の抑止 ()
- 6 技術協力・技術援助など経済協力の拡大 ()
- 7 貿易黒字の減少 ()
- 8 人的交流の拡大 ()
- 9 その他 _____ ()

Q10 韓国が日本との懸案問題において、もし日本に譲歩するのであればあなたは次のうち、どれを最後まで諦めないでしょうか。

- 1 植民地支配への謝罪 ()
- 2 従軍慰安婦に対する謝罪と賠償 ()
- 3 独島 ()
- 4 わからない ()

Q11-1 現在の韓日関係は全体として良好だと思いますか。そう思わないですか。
()

- 1 良好だと思う
- 2 まあ良好だと思う
- 3 あまり良好ではない
- 4 良好と思わない
- 5 わからない

Q11-2 韓国と日本のこれからの関係はどうなると思いますか。 ()

- 1 非常によくする
- 2 少し良くなる
- 3 現在と同じ状態が続く
- 4 少し悪くなる
- 5 非常に悪くなる。

独島/竹島問題に関する質問です。

Q12-1 独島は韓国と日本、どちらの領土だと思いますか。 ()

- 1 韓国の領土である。
- 2 日本の領土である。
- 3 どちらの領土であるかわからない。

独島が韓国の領土であると答えた方に

Q12-2 独島が韓国の領土だと思うのはなぜですか。

- 1 韓国人である以上当然のことだ
- 2 家族・知人・友人などからそう聞いた
- 3 学校教育・教科書で学んだ
- 4 新聞・テレビなどマス・メディアがそれを主張・証明しているから
- 5 日本が領有権を主張しているから調べてみた
- 6 現在韓国が占拠しているから

Q12-3 「独島は我が領土」であると認識し始めたのはいつからですか。

- 1 小学校に入る以前から (満八才以前)
- 2 小学校のとき (満8才-13才)
- 3 中学校のとき (満14才-16才)
- 4 高校のとき (満17才-19才)
- 5 高校を卒業したあと (満20才以降)

Q13-1 次の中、独島と関連してあなたが知っていること、あるいは聞いたことがある項目すべてに○をつけてください。

| | | | | | |
|----|------------------|-----|----|---------------|-----|
| 1 | 三国史記 | () | 11 | 無主地先占 | () |
| 2 | 世宗実録地理志 | () | 12 | サンフランシスコ講和条約 | () |
| 3 | 東国輿地勝覽 | () | 13 | 異斯夫 | () |
| 4 | 肅宗実録 | () | 14 | 安龍福 | () |
| 5 | 成宗実録 | () | 15 | 洪順七 | () |
| 6 | 隱州視聽合記 | () | 16 | 于山島 | () |
| 7 | SCAPIN 677 | () | 17 | 竹島 | () |
| 8 | 島根県告示第四〇号 | () | 18 | 三峯島 | () |
| 9 | 平和線 (Peace line) | () | 19 | 東島・西島 | () |
| 10 | 排他的経済水域 (EEZ) | () | 20 | 国際司法裁判所 (ICJ) | () |

Q13-2 現在、あなたが知っている独島に関する知識はどこから得たと思いますか。一番多くの知識を得たところに①を、その次の情報源になったところに②を書いてください。

| | | | | | |
|---|---------------|-----|----|----------|-----|
| 1 | 親・家族・知人の話 | () | 6 | 雑誌 | () |
| 2 | 歌 (「独島は我が領土」) | () | 7 | 新聞 | () |
| 3 | 先生 | () | 8 | テレビ | () |
| 4 | 教科書 | () | 9 | インターネット | () |
| 5 | 単行本 | () | 10 | その他_____ | () |

Q14 日本政府が独島の領有権を主張する理由は何だと思えますか。()

- 1 日本の領土であるため
- 2 軍事・安定的に日本に重要であるため
- 3 漁業・海底資源などで日本に重要であるため
- 4 領土拡張の野心があるため
- 5 日本の国内世論がそれを望むから
- 6 中国・台湾・ロシアなどとの領土問題と絡んでいるため
- 7 わからない

Q15 韓国マス・メディアの独島/竹島問題に関する報道に対してどう思いますか。

| | | 非常に そう思 う | ややそ う思 う | ど ち ら な い | ややそ う思 わ ない | 非常に そう思 わ ない |
|---|--|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 1 | 新聞・TV などマス・メディアの独島関連報道は、事実を報道するよりは反日感情を煽るものが多い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 新聞・TV などマス・メディアの独島関連報道は過熱している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 新聞・TV などマス・メディアの独島関連報道は韓国と日本、両側の意見を公平に取り上げている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q16 次に独島/竹島問題に関するさまざまな意見や考え方をあげます。各質問の内容があなたの意見と一致する程度によって該当するところに○をつけてください。

| | | そう思う | そう思わない | わからない |
|---|--|------|--------|-------|
| 1 | 独島/竹島問題が生じたのにはアメリカにも責任がある | 1 | 2 | 3 |
| 2 | 日本が独島の領有権を主張するのにはそれなりの根拠がある。 | 1 | 2 | 3 |
| 3 | 韓日関係を友好的に維持するために、韓国は独島/竹島問題に関して日本を刺激するような主張はしない方がいい。 | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 独島を紛争地域にするのが日本の戦略であるため、日本が独島の領有権を主張してもあまり騒がないほうが良い。 | 1 | 2 | 3 |
| 5 | 独島/竹島問題は二国間では解決が難しいから国際司法裁判所で解決するしかない。 | 1 | 2 | 3 |
| 6 | 国際司法裁判所に行けば韓国は不利である。 | 1 | 2 | 3 |
| 7 | 独島/竹島問題を解決するため、独島を韓国と日本が共同管理するほうが良い。 | 1 | 2 | 3 |
| 8 | 将来韓国と日本は独島をめぐる戦争をするかも知れない。 | 1 | 2 | 3 |
| 9 | 独島を守るためには、韓国は日本と戦争をしても良い。 | 1 | 2 | 3 |

政治意識に関する質問です。

Q17 あなたは韓国人であることを誇りに思いますか。恥ずかしいと思いますか。

()

- 1 誇りに思っている
- 2 多少は誇りに思う
- 3 どちらでもない
- 4 少し恥ずかしいと思う
- 5 恥ずかしいと思う

Q18 個人の良心と国家・民族への忠誠が対立する場合、あなたならどうしますか。

()

- 1 個人の良心に従って行動する。
- 2 国家・民族への忠誠を優先して行動する。
- 3 わからない

Q19 韓日関係、対日文化開放などに対してどう思いますか。番号のところに○をつけてください。

| | | 非常に そう 思う | やや そう 思う | どちら でも ない | やや そ う 思 わ ない | 非常 に 思 わ ない |
|---|--------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|------------------------------|-------------------------|
| 1 | 韓国の中長期的な繁栄を確保するために国際化は必要不可欠である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 日本に対する全面的な文化開放は文化の従属を招く恐れがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 日本との関係において過去問題に執着するのは望ましくない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 朝鮮半島の分断の原因は日本の植民地支配にある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 | 韓国は日本に経済的に従属され第二の植民地になる可能性がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q20 あなたの政治的立場は、保守的ですか。革新的ですか。

番号のところに○をつけてください。5を中間に、左に寄るほど革新的、右に寄るほど保守的という意味です。下にあるイデオロギーは目安です。

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|---|---|-------|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| ← 革新的 | | | 中道 | | | 保守的 → | | |

| | | | | | | | | |
|-------|------|--------|------|----|-----------|---------|---------|------|
| 無政府主義 | 共産主義 | 社会民主主義 | 自由主義 | 中道 | キリスト教民主主義 | 保守主義ハト派 | 保守主義タカ派 | 全体主義 |
|-------|------|--------|------|----|-----------|---------|---------|------|

Q21 国際社会について次のような考え方のうち、あなたの意見はどちらの考え方に近いですか。

- | |
|---|
| <p>A 国際社会は基本的に弱肉強食の競争的社会である。国々は必要に応じて協力することもあるであろうが、それぞれの国が自国の生存と利益を優先的に追求するのが当然である。</p> <p>B 国際社会は基本的に相互依存的な社会である。ときには自国の利益を犠牲にしても、国際社会全体の利益のために相補いあって協力するのが当然である。</p> |
|---|

- 1 Aに近い
- 2 どちらかというAに近い
- 3 どちらかというBに近い
- 4 Bに近い
- 5 わからない

Q22 次のことについて、あなたの意見と同じであれば“そう思う”、違っていれば“そう思わない”で答えてください。

| | | そう思う | そう思わない | わからない |
|---|------------------------------------|------|--------|-------|
| 1 | 政府は私のような者の意見には関心がない | 1 | 2 | 3 |
| 2 | 現在政府は我が国の重要問題を解決する能力がないように見える | 1 | 2 | 3 |
| 3 | 私のようなものが政府の政策に影響を与えることができる道は投票しかない | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 政治はあまりにも複雑過ぎてなにが何だかわからない | 1 | 2 | 3 |

Q23 あなたは政治にどのくらい満足していますか。当てはまるところに○をつけてください。

| | | 非常に満足している | まあ満足している | 普通である | 少し不満である | 非常に不満である |
|---|------|-----------|----------|-------|---------|----------|
| 1 | 韓国政治 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 韓日関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q23 次の質問に○×で答えてください。

| | | |
|---|-------------------------|-----|
| 1 | 日本に行ったことがある | () |
| 2 | 日本人の友達がいる | () |
| 3 | 日本文化（映画・小説・音楽）に接したことがある | () |
| 4 | 日本語を勉強したい（している） | () |



最後に、資料分類のための人的事項に関する質問です。番号のところに○をつけてください。

| 性別 | 年齢 | 出身地 | 身分 | 宗教 | 専攻分野 |
|-----|----------|-------|--------|---------|---------|
| 1 女 | 1 14才以下 | 1 ソウル | 1 中学生 | 1 キリスト教 | 1 人文科学 |
| 2 男 | 2 15-19才 | 2 京畿道 | 2 高校生 | 2 カトリック | 2 芸術・体育 |
| | 3 20-24才 | 3 江原道 | 3 専門学校 | 3 仏教 | 3 社会科学 |
| | 4 25-29才 | 4 忠清道 | 及び大学生 | 4 無信仰 | 4 自然科学 |
| | 5 30-34才 | 5 慶尚道 | 4 大学院生 | 5 その他 | 5 その他 |
| | 6 35-39才 | 6 全羅道 | 5 その他 | | |
| | 7 40才以上 | 7 濟州道 | | | |
| | | 8 海外 | | | |

お疲れさまでした。ありがとうございます。